資料2

一般国道４号　栃木県矢板市～那須塩原市間
計画段階評価
第２回　説明資料

１．地域の意見聴取（第１回）の内容について	・・・ 1
２．地域の意見聴取（第１回）の結果について	・・・ 5
３．対応方針（ルート帯案）について	・・・31
４．地域の意見聴取（第２回）について	・・・39

平成２６年１０月１日　関東地方整備局

１．地域の意見聴取（第１回）の内容について

1-1. 意見聴取の実施内容

■意見聴取期間　平成26年2月6日～ 3月7日

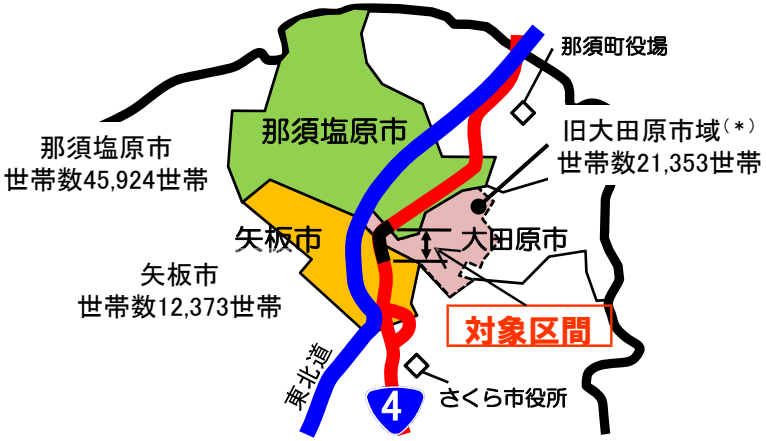
■意見聴取の対象

調査票形式				
住民等	郵送	矢板市	14,309部（12,373 世帯）	合計　87,600部 （約79,650世帯）
		大田原市 （旧大田原市域）	25,116部（21,353世帯）	
		那須塩原市	48,175部（45,924世帯）	
	留置き	周辺市町の 市役所・町役場	さくら市、矢板市、大田原市、 那須塩原市、那須町 [5箇所各50部] 計　250部	合計　600部
		周辺市町の 道の駅	矢板市(1)、大田原市(1)、 那須塩原市(3)、那須町(2) [7箇所各50部] 計　350部	
	Web	一般の意見を聴取		
関係団体	郵送	矢板市・大田原市・那須塩原市・ 那須町の工業団地　会員企業［108社］		合計　217社
		栃木県トラック協会　塩那支部会員企業［109社］		

※世帯数は、H26.4.1現在住民基本台帳
※対象地域内に存在する全ポストへ投函したため、部数は世帯数とは異なる

ヒアリング調査		
関係団体	教育機関	（矢板市・大田原市の沿線小・中学校）
	工業団地連絡協議会	（野崎・野崎第二工業団地の連絡協議会事務局）
	トラック協会	（国道4号通過各都県トラック協会）
	経済団体	（矢板市・大田原市・那須塩原市の商工会議所、 さくら市・矢板市・大田原市・那須塩原市・那須町の 観光協会）
	農業協同組合	（JAしおのや、JAなすの）
	消防本部	（矢板市・大田原市・那須塩原市の消防本部）
	自治会	（矢板市・大田原市の沿線自治会）

■意見聴取（住民等）対象地域



（＊）大田原市における住民への郵送は旧大田原市域のみ

※世帯数は、H26.4.1現在住民基本台帳

1-2. 地域への情報提供（内容）

①ホームページ	：	国土交通省宇都宮国道事務所ホームページに意見聴取のページを開設。 栃木県および周辺5市町（矢板市、大田原市、那須塩原市、さくら市、那須町）のホームページで意見聴取を案内。
②新聞広告	：	栃木県内2紙に意見聴取への協力を呼びかける広告を掲載
③広報チラシ	：	広報チラシの自治会班回覧を実施（那須塩原市等）
④ポスター	：	道の駅7箇所、市役所5箇所に意見聴取への協力を呼びかけるポスターを掲載
⑤関係団体ヒアリング	：	関係団体へのヒアリングにあわせて、意見聴取への協力を呼びかけ

①ホームページ

◆国土交通省宇都宮国道事務所

◆栃木県および周辺5市町

②新聞広告（H26.2.12朝刊）

③広報チラシ

④ポスター（掲示状況）

（道の駅　湯の香　しおばら）

⑤関係団体ヒアリング

（大田原市野崎自治会）

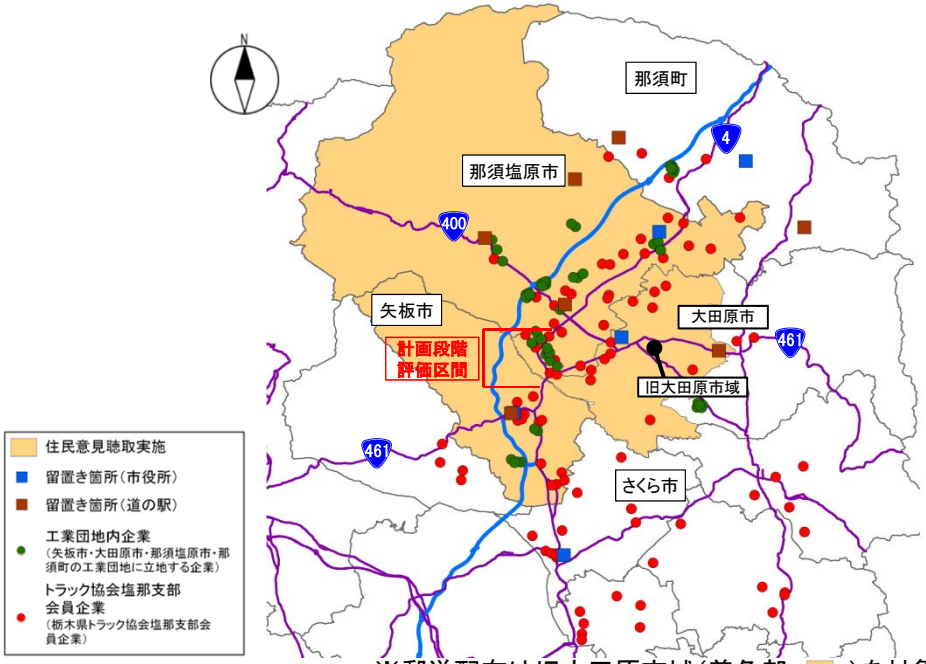
1-3. 意見聴取の実施状況

調査票の配布・回収、関係団体ヒアリングを以下の通り実施。

調査票形式			配布回収部数（カッコ内）は回収率	
住民等	郵送配布 郵送回収 留置き	配布数	88,200部 住民　87,600部 留置き　600部	回収数計 15,279部
		回収数	14,893部　（17%）	
	Web	回収数	386部	
関係団体 （郵送配布、郵送回収）		配布数	217部	
		回収数	75部　（35%）	

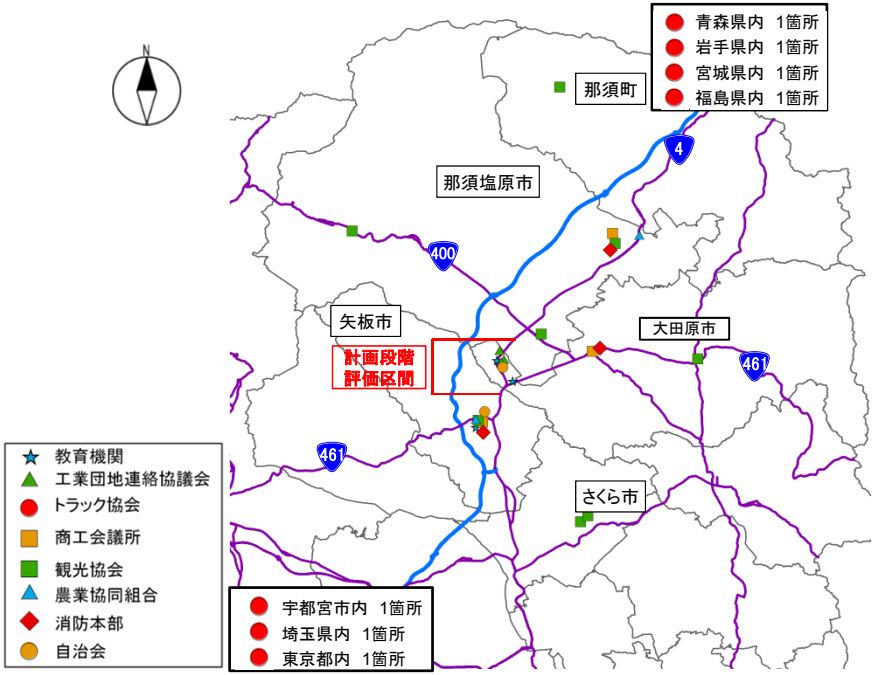
関係団体ヒアリング		実施状況
教育機関	小学校	2
	中学校	1
工業団地連絡協議会		2
トラック協会		7
経済団体	商工会議所	3
	観光協会	8
農業協同組合		2
消防本部		3
自治会		2
合計		30

■調査票(住民等、関係団体)の配布範囲



※郵送配布は旧大田原市域（着色部　）を対象に実施

■関係団体ヒアリングの実施先



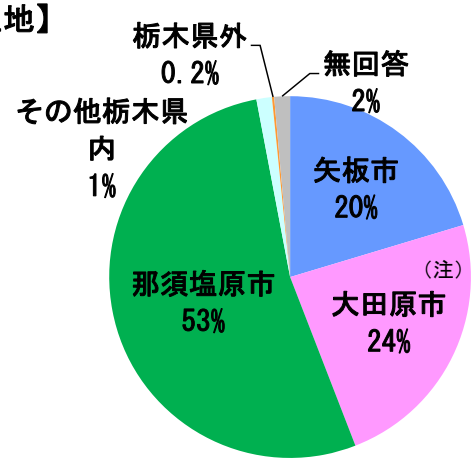
２．地域の意見聴取（第１回）の結果について

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（地域区分・属性）

◆「地域の意見聴取」の全回収数は15,279人で、郵送・留置き14,893人、Web386人が回答。
◆回答者の地域区分は、矢板市2割、大田原市(注)2割強、那須塩原市約5割と配布部数に概ね比例。
◆郵送・留置きの地域別の回収率は、矢板市が21%と高く、大田原市(注)が14%、那須塩原市が16%であった。

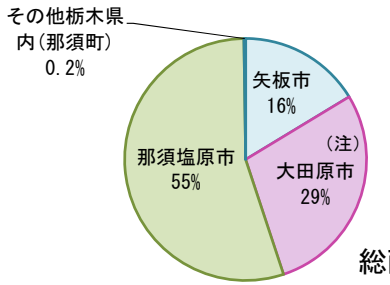
回答者の地域区分

【居住地】



総回答者数　15,279人

【参考】郵送・留置き配布数の地域区分

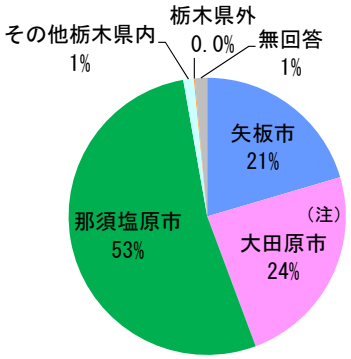


総配布数
88,200部

【居住地(郵送・留置き)】
回収数と回収率

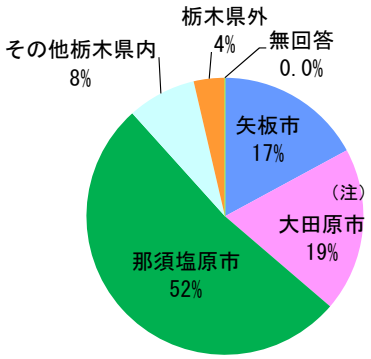
	郵送配布数（部）	留置き配布数（部）	回収数（部）	回収率（%）
矢板市	14,409	100	3,045	21
大田原市	25,216（旧大田原市域のみ）	100	3,555	14
那須塩原市	48,375	200	7,881	16
その他栃木県	200	200	182	
栃木県外			16	
不明			214	
合計	88,200	600	14,893	17

【居住地(郵送・留置き)】



総回答者数　14,893人

【居住地(Web)】



総回答者数　386人

※）　四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある
（注）　大田原市は旧大田原市域を含む全域

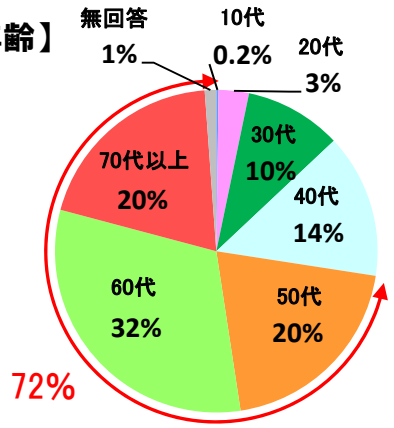
2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（地域区分・属性）

◆意見聴取は、矢板市、大田原市(注)、那須塩原市の全世帯を対象としたところ、男性の回答率が7割以上と高く、女性の割合が低い傾向。

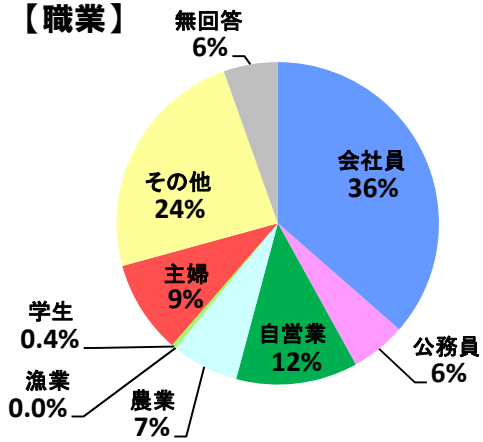
◆回答者の属性として、地域の割合以上に50代以上の回答率が7割以上と高く、ほぼ全ての回答者が運転免許を保有。

住民意見聴取における回答者属性

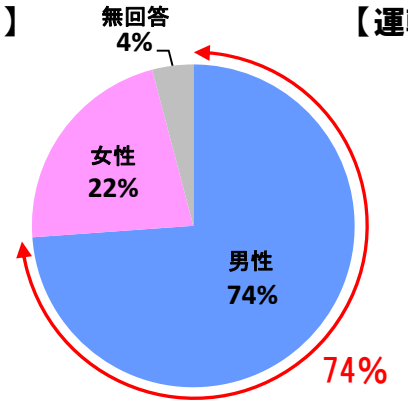
【年齢】



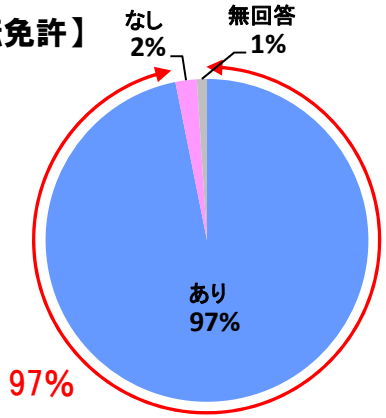
【職業】



【性別】



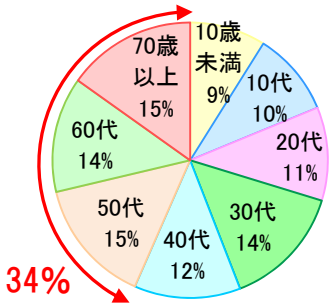
【運転免許】



総回答者数　15,279人

【参考】矢板市、大田原市、那須塩原市の統計データ　夜間人口：矢板市33,788人、大田原市75,773人、那須塩原市117,075人　（H26.4.1）

年齢

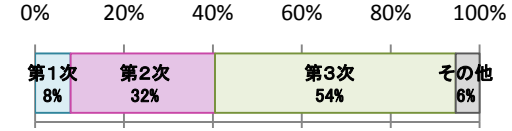


資料）H22国勢調査

就業率

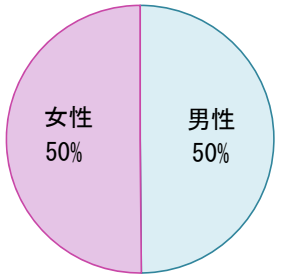
	就業者数	就業率
大田原市(注)	38,327人	56.5%
矢板市	17,287人	56.3%
那須塩原市	59,140人	58.7%

産業別就業割合



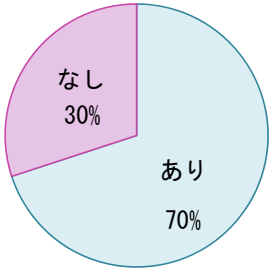
資料）就業率：H22国勢調査より
（就業者数）÷（15歳以降人口）で算出
産業別就業者割合：H22国勢調査

性別



資料）H22国勢調査

運転免許保有（※栃木県全域）



資料）警察庁種類別運転免許
現在数（H25末）

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

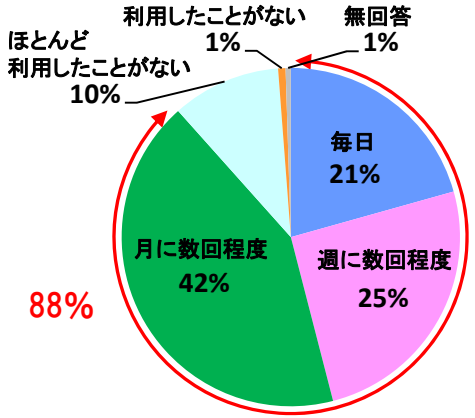
（注）　大田原市は旧大田原市域を含む全域

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（利用頻度・目的・手段）

◆利用頻度は、回答者の約9割が国道4号（矢板市～大田原市～那須塩原市間）を「月に数回程度」以上利用と回答。
◆利用目的は、総回答者数の約7割が「私用」と回答。
◆移動手段は自動車を利用する方が97%と大多数。

国道4号の利用頻度

【質問①】国道4号（土屋交差点から二区交差点）の利用頻度について、回答して下さい。　（単数回答）

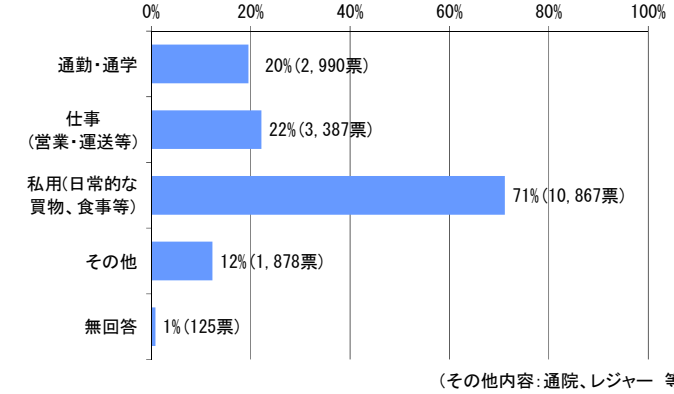


総回答者数　15,279人

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

国道4号の利用目的

【質問③】土屋交差点から二区交差点間の主な利用目的について、回答して下さい。　（複数回答）



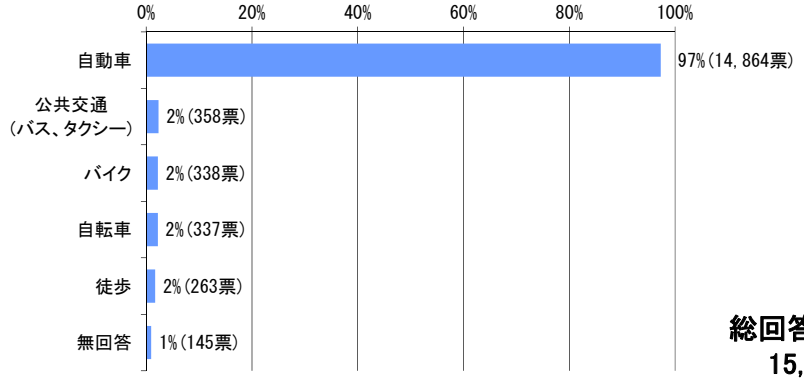
総回答者数
15,279人

（その他内容：通院、レジャー　等）

※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

国道4号の移動手段

【質問②】国道4号（土屋交差点から二区交差点）の移動手段について、　回答して下さい。　（複数回答）



総回答者数
15,279人

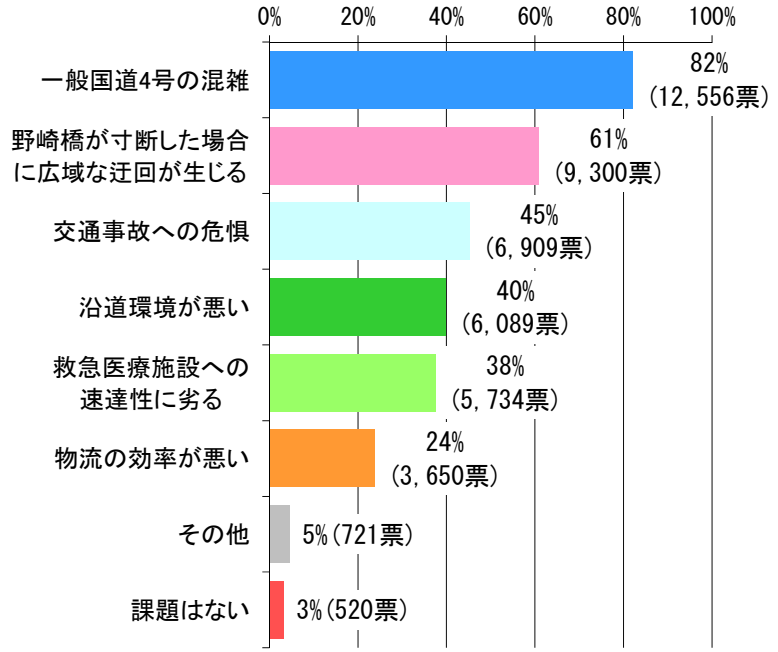
※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（地域の課題・政策目標）

◆地域の課題では、「一般国道4号の混雑」が約8割と最も多く、次いで「野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる」との回答が約6割。
◆政策目標の案では、「交通容量の確保」が約9割、次いで「災害に強い緊急輸送道路の確保」を回答した人が約6割。

地域の課題

【質問④】国道4号（土屋交差点から二区交差点）にはどのような課題があると思いますか。（複数回答）

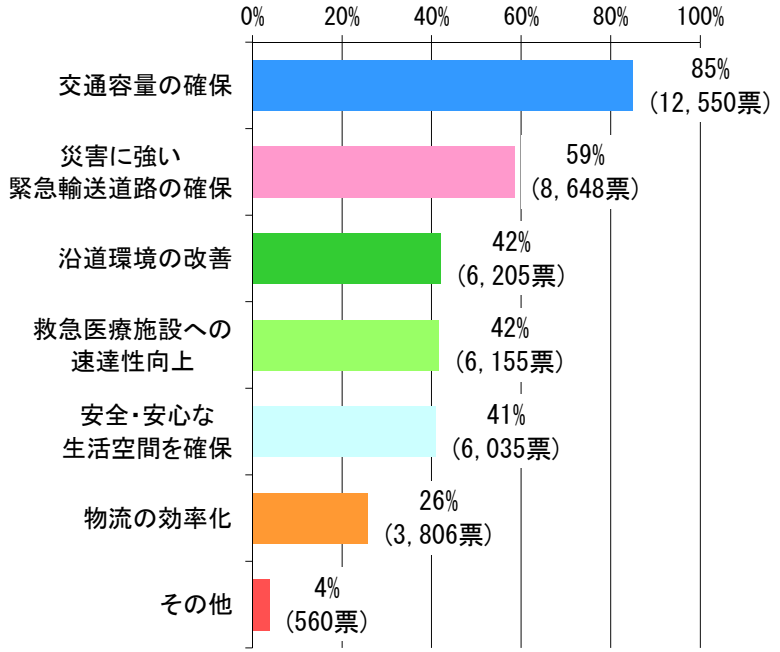


※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

総回答者数 15,279人

課題を解決するための政策目標

【質問⑤】課題を解決するための政策目標として重要だと思うものを回答して下さい。（複数回答）



※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る
※ただし、質問④で「課題はない」を選択したものを除く

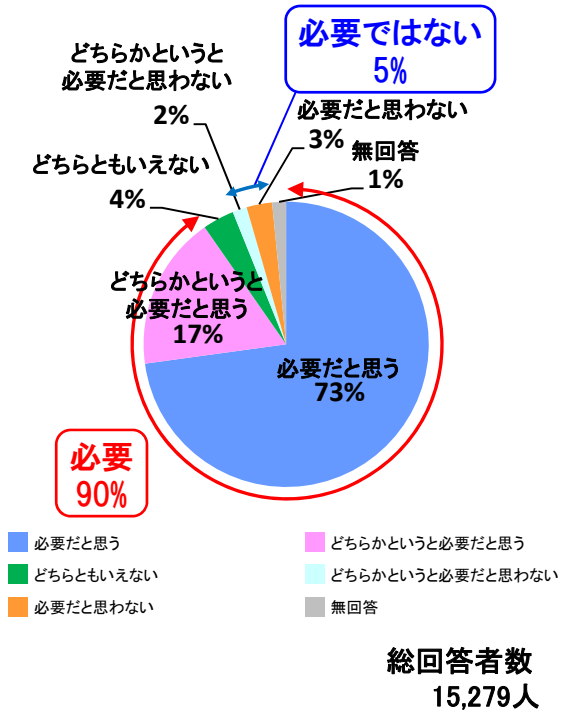
総回答者数 14,759人

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（道路整備の必要性とその理由）

◆回答者の9割が道路整備の必要性を実感。
◆道路整備の必要性において、「必要」と「必要ではない」と回答した人の地域の課題を比較すると、「必要ではない」と回答した人は「課題はない」が最も多いが、それを除けばどちらもほぼ同じ順位となり、「一般国道4号の混雑」が最も多い。

道路整備の必要性

【質問⑥】国道4号（土屋交差点から二区交差点）に道路の整備は必要だと思いますか。（単数回答）



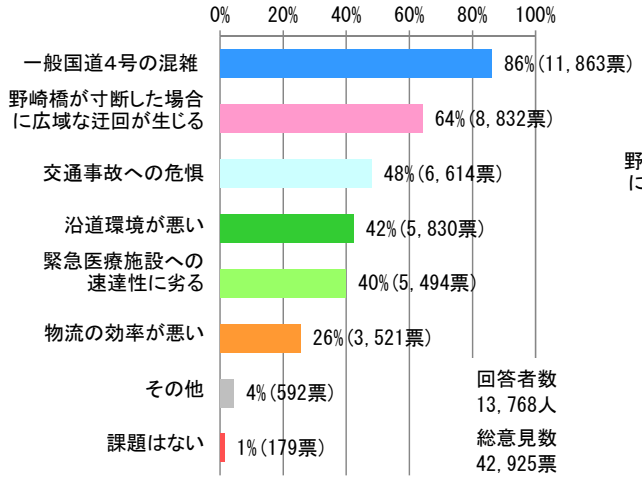
総回答者数
15,279人

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

地域の課題

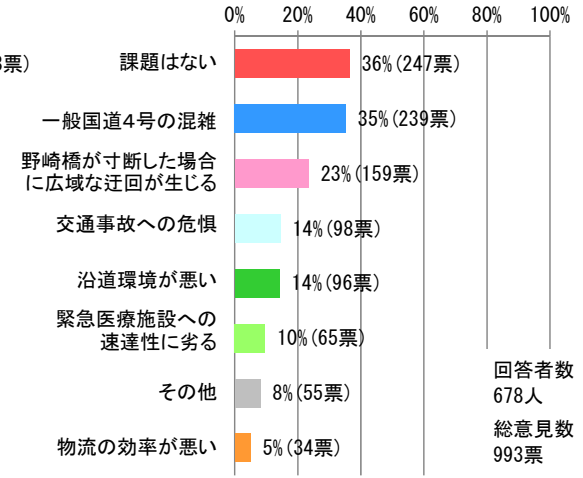
【質問④】国道4号（土屋交差点から二区交差点）にはどのような課題があると思いますか。（複数回答）

【課題(必要)】



※割合は「質問⑥で道路整備が必要、どちらかというと必要」の総回答数に対する回答数

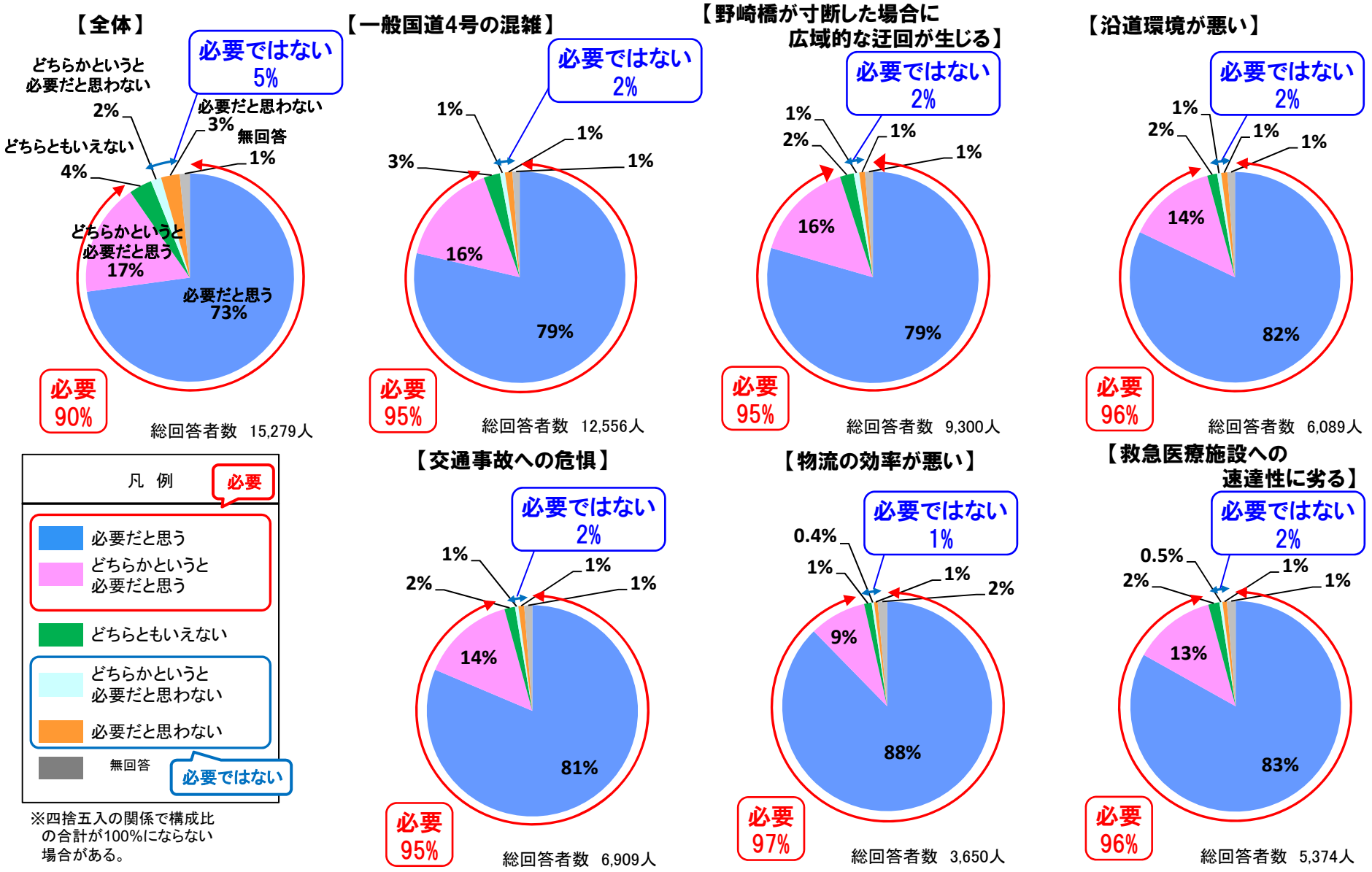
【課題(必要ではない)】



※割合は「質問⑥で道路整備が必要だと思わない、どちらかというと必要だと思わない」の総回答数に対する回答数

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（道路整備の必要性）

◆道路整備の必要性は回答者の9割であるが、課題別でみると、各課題では9割以上が必要性を認識。
◆全体で「必要ではない」と回答した5%を課題別に整理すると「必要ではない」と回答した方は1～2%程度に留まる。



2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（自由意見）

◆質問⑦の自由意見は、政策目標のいずれかに分類できる内容が多い。その中でも「混雑緩和」、「安全・安心」に関する意見が多い。
◆質問⑧の自由意見は、「現在の道路で十分」や「道路整備以外の優先することがある」等の意見があった。

【質問⑦】 今後の道路整備にあたって配慮すべき事項があればお聞かせください。（自由回答）

分類		住民意見聴取による主な自由意見
政策目標に対応する意見分類	混雑緩和【3,232件】	• 土屋（つちや）から野崎橋（のざきばし）間はいつも混雑している。早く片方2車線にして欲しい。 • 毎日の通勤で大変時間がかかり、苦労している。また、全く時間を読むことも出来ず、大変な思いをしている。 • 朝7時以降、アルバイト等で国道4号を利用するが、渋滞のため遅れる心配があり困っている。
	安全・安心【2,594件】	• 運転していると、下石上（しもいしがみ）地区は車道が狭く、またカーブもあるので大型車とすれ違う時に非常に危険を感じる。 • 下石上（しもいしがみ）地区の道路は狭くて通学する子供たちが危険だと思う。安全に通える学校までの通学路が確保できるのは最低条件ではないだろうか。
	沿道環境【620件】	• 下石上（しもいしがみ）地区の状況は悲惨。住民にとって騒音や排気ガスは本当にひどい。もう少し静かできれいな空気の中で暮らせたらいいと思う。
	災害【373件】	• 東北道の通行止め時、箒川（ほうきがわ）の氾濫による野崎橋寸断時、東日本大震災時は、国道4号や周辺道路が混雑し、宇都宮方面に行くのが困難になった。災害時にも強い道路にしてほしい。支援物資や自衛隊車両が通行できないのは大変不安に感じる。
	医療【119件】	• 国道4号が混雑していると、（片側1車線しかないため）救急車が走れない状況を何度か見てるので、早急に道路の拡幅を望む。
	物流【101件】	• 関東と東北を結ぶ基幹道路として、沿道環境に配慮した混雑緩和される物流効率の良い道路にして欲しい。

【質問⑧】 道路整備を必要だと思わない理由についてお聞かせください。（自由回答）

分類	住民意見聴取による主な自由意見
現在の道路で十分　【212件】	• 多少の交通混雑は仕方がないと思う。日常生活には現状で全く問題なく利用している。
道路分野以外の優先　【124件】	• 道路整備はお金がかかる。それよりももっと福祉を充実させてほしい。

【質問⑨】 その他ご意見がありましたらお聞かせください。（自由回答）

分類	住民意見聴取による主な自由意見
その他意見　【2,786件】	• 地域の景観を大切にしたインフラ整備を行って欲しい。 • 国交省の予算の問題もあると思うが、計画したら速やかに実行して頂きたい。 • 長い年月の願いだ。一日も早く実現して欲しい。

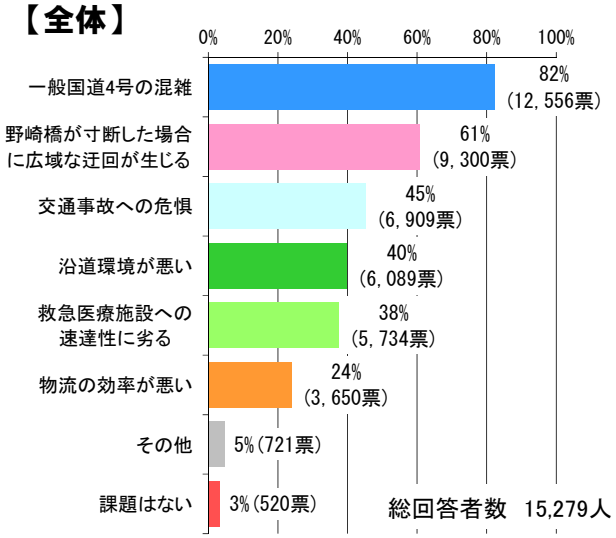
※掲載件数は、意見数に応じた。 意見数1～1,000件→1件、意見数1,001～3,000件→2件、意見数3,001以上→3件

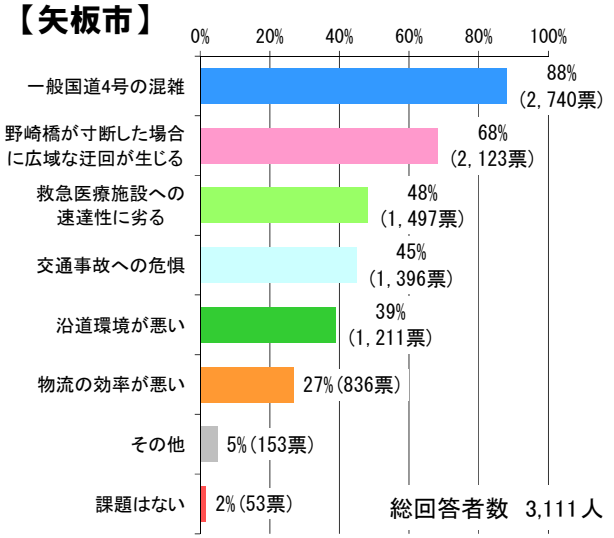
2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（地域別の地域の課題）

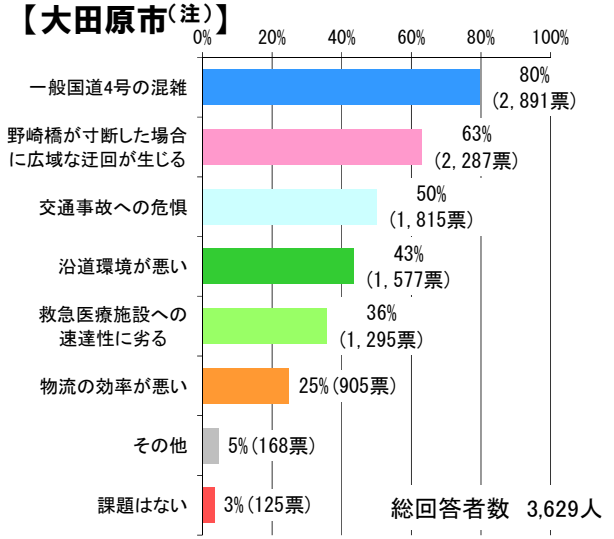
◆地域別で見ても「一般国道4号の混雑」、次いで「野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる」との課題を認識している人が多い。

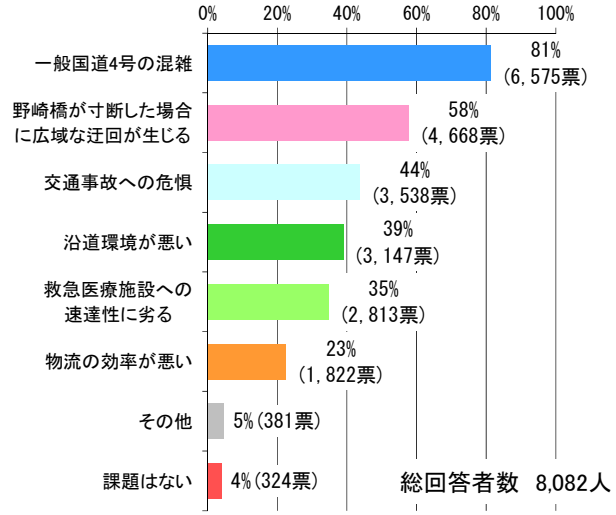
◆3番目には、大田原市(注)、那須塩原市では「交通事故への危惧」、矢板市では「救急医療施設への速達性に劣る」との課題を認識している人が多い。

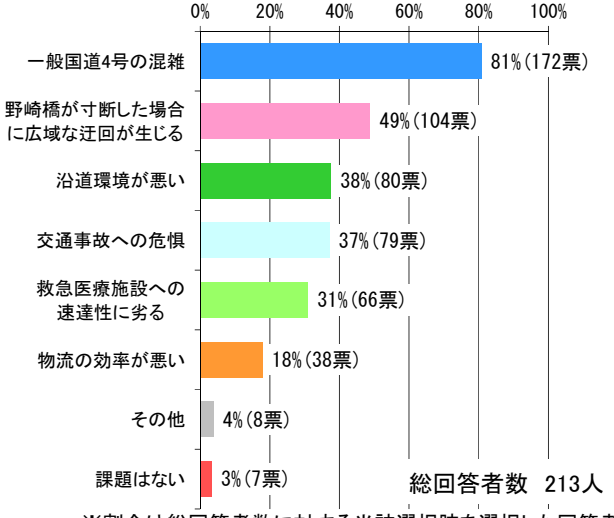
◆その他栃木県内、栃木県外では、「沿道環境が悪い」との課題を認識している人が多い。

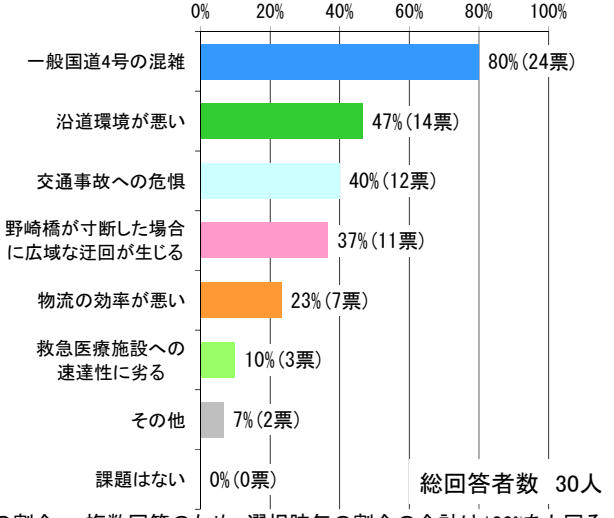












※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合

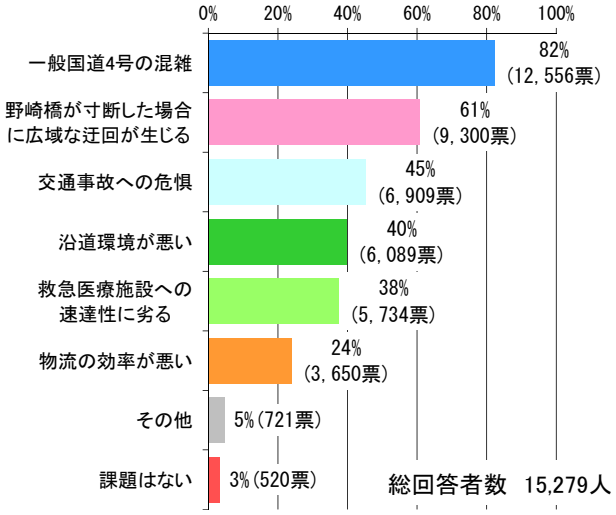
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

（注） 大田原市は旧大田原市域を含む全域

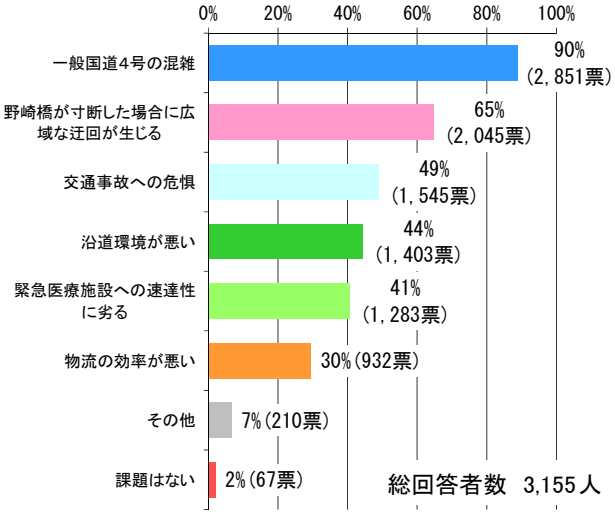
2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（利用頻度別の地域の課題）

◆利用頻度別に見ても「一般国道4号の混雑」、次いで「野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる」に続き、3番目には「交通事故への危惧」との課題を認識している人が多い。

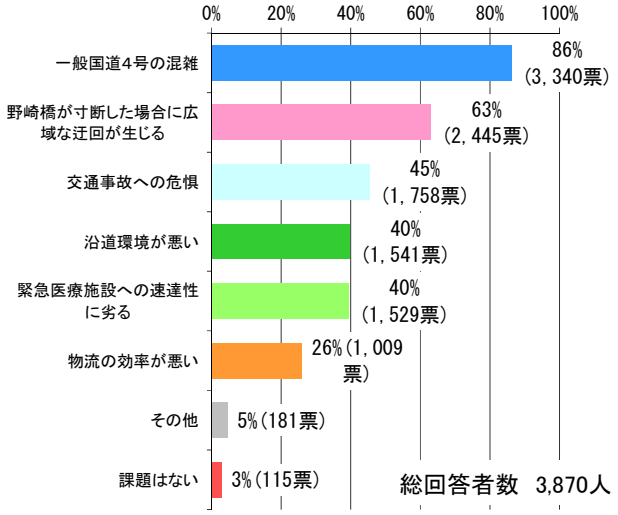
【全体】



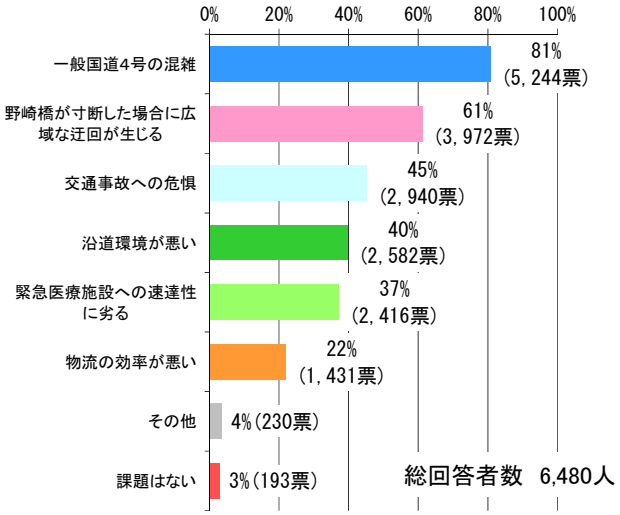
【毎日】



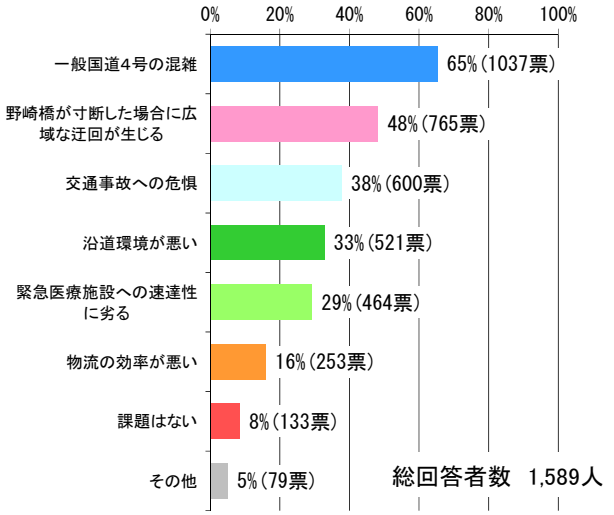
【週に数回程度】



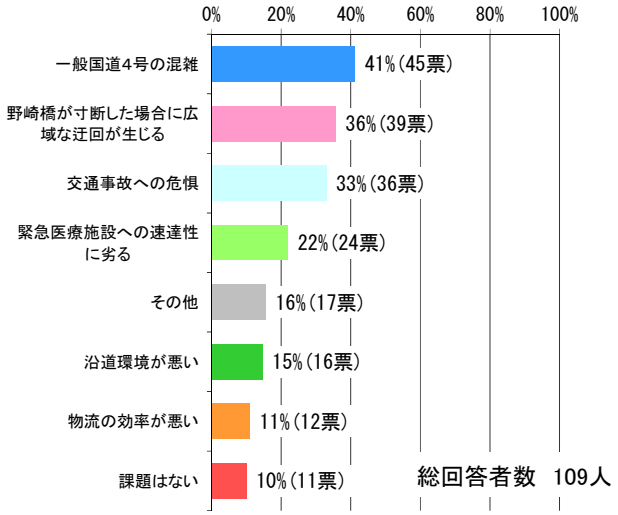
【月に数回程度】



【ほとんど利用したことがない】



【利用したことがない】

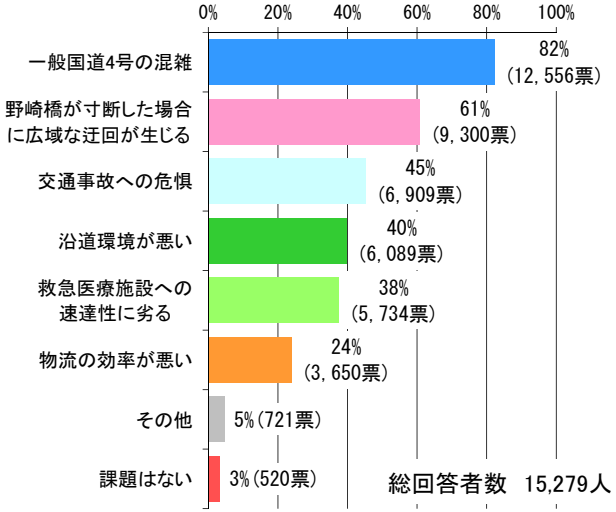


※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合　　複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

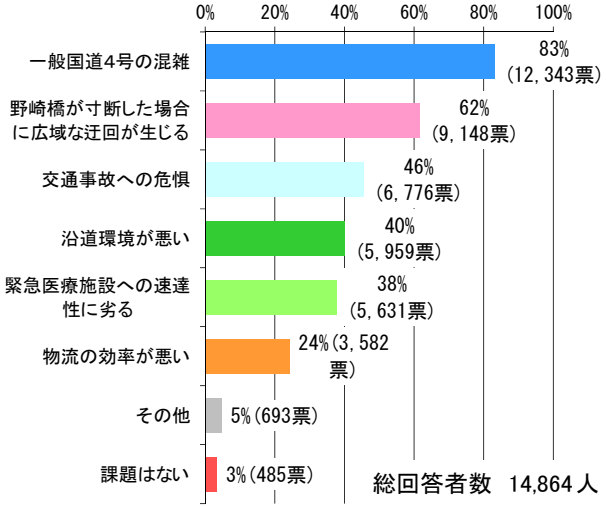
2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（移動手段別の地域の課題）

◆移動手段別では「一般国道4号の混雑」、2番目に「野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる」との課題を認識している人が多いが、自転車、徒歩においては、2番目には「交通事故への危惧」との課題を認識している人が多い。

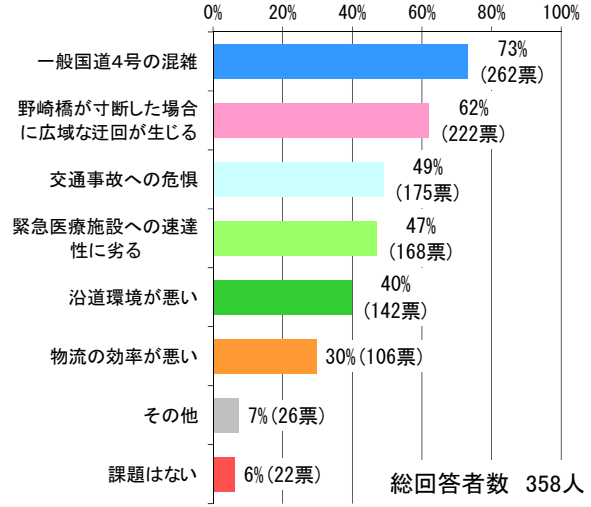
【全体】



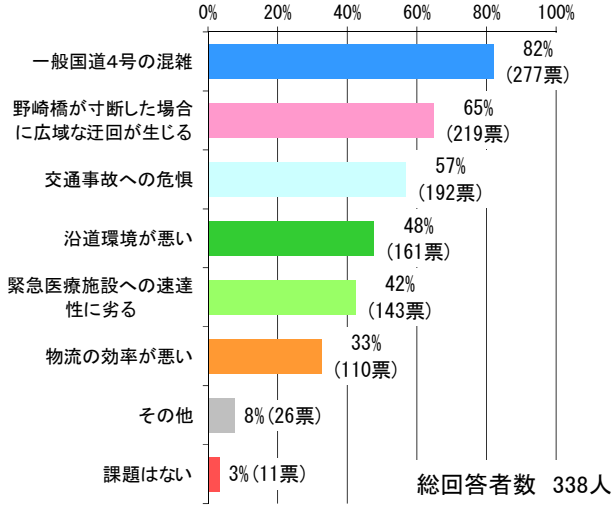
【自動車】



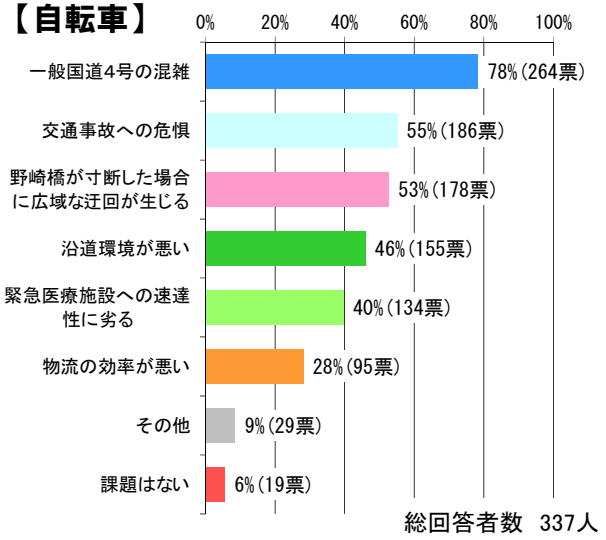
【公共交通】



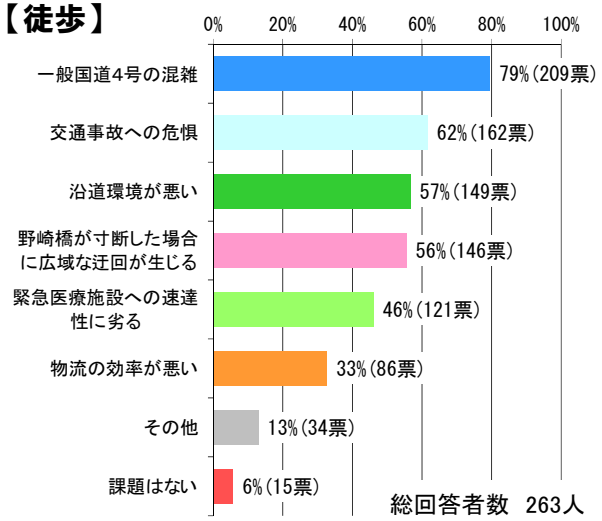
【バイク】



【自転車】



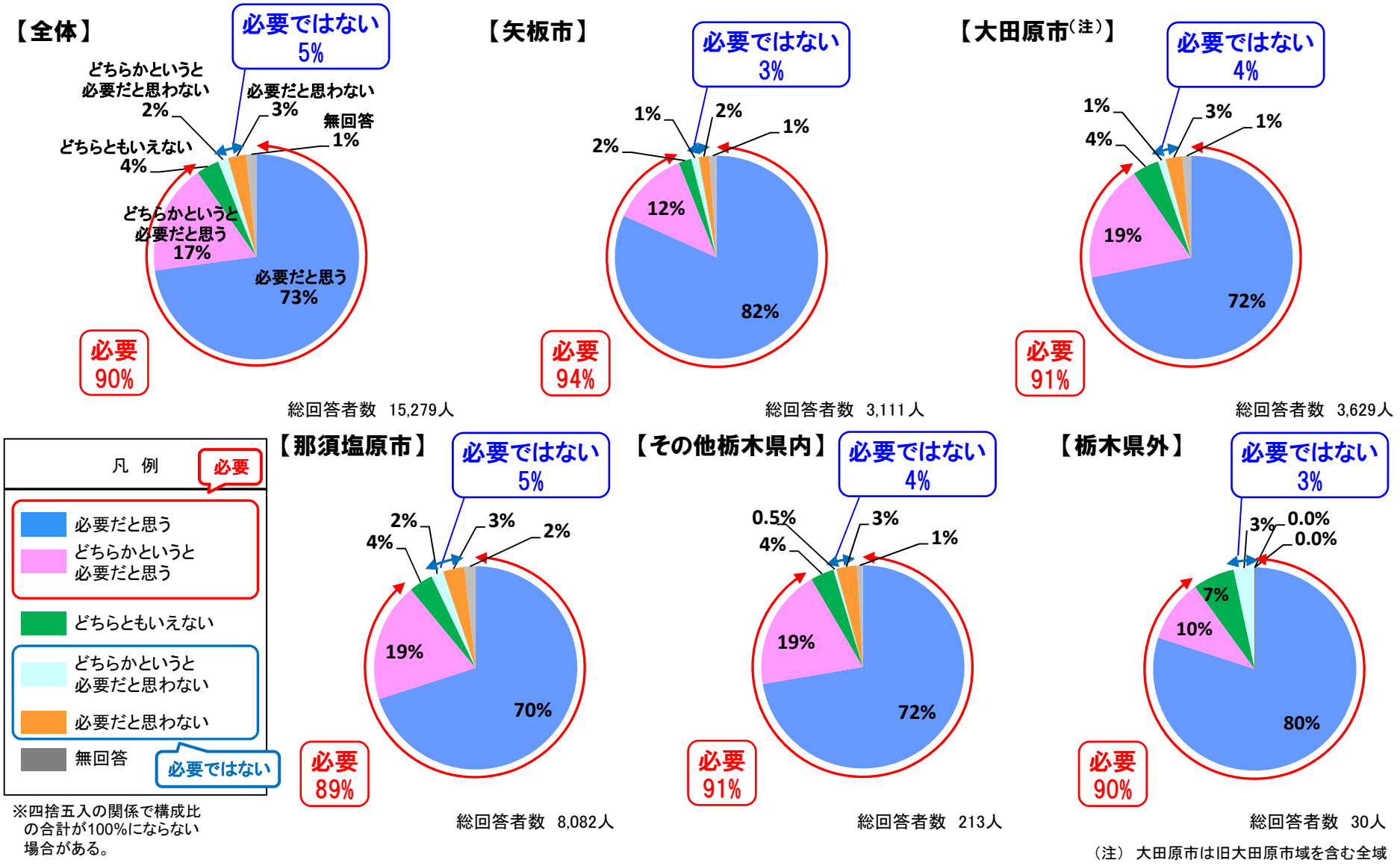
【徒歩】



※割合は総回答者数に対する当該選択肢を選択した回答者の割合　　複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（地域別の道路整備の必要性）

◆地域別で見ると、「矢板市」「大田原市(注)」「那須塩原市」ともに約9割の回答者が道路整備の必要性について、高い認識がある。

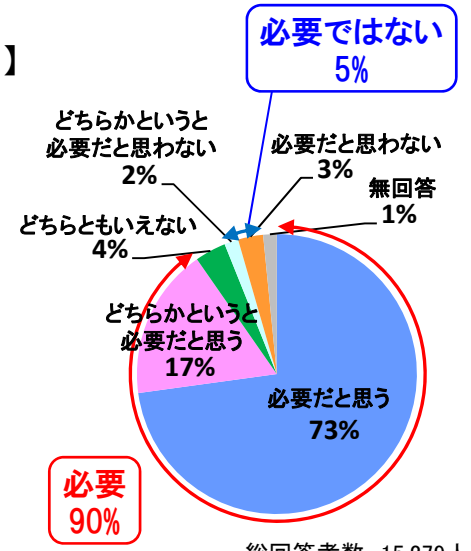


（注）　大田原市は旧大田原市域を含む全域

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（利用頻度別の道路整備の必要性）

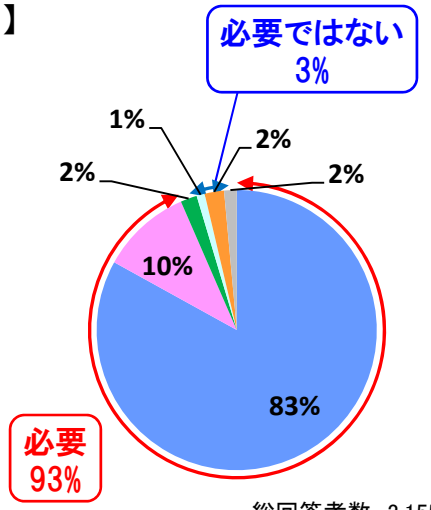
◆利用頻度別に見ると、利用頻度が高い人ほど道路整備の必要性を強く感じている。
◆「利用したことがない」と回答した人でも6割以上の回答者が道路整備の必要性を感じている。

【全体】



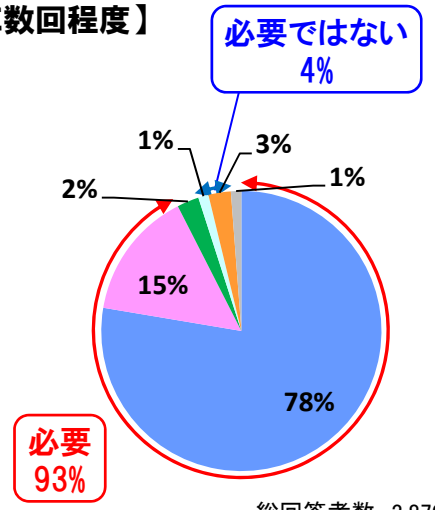
総回答者数　15,279人

【毎日】

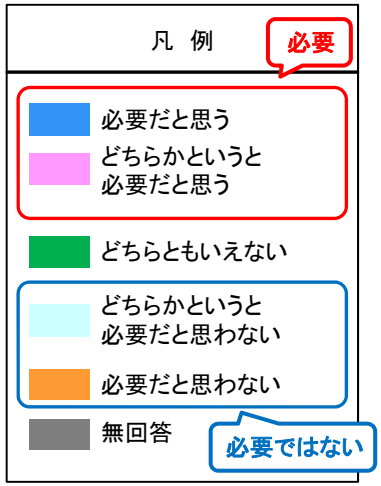


総回答者数　3,155人

【週に数回程度】

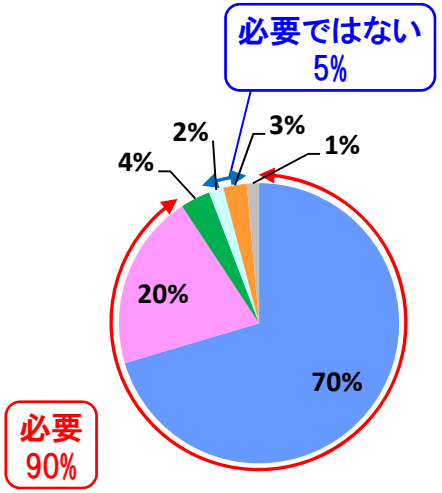


総回答者数　3,870人



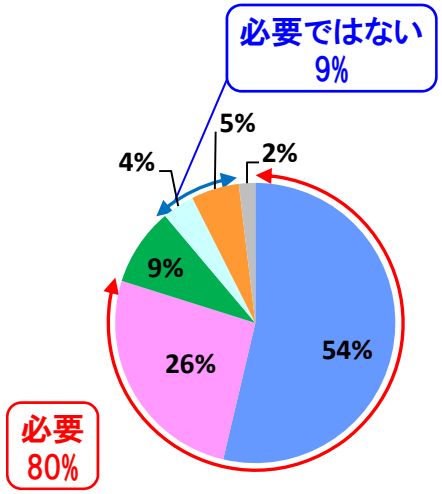
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

【月に数回程度】



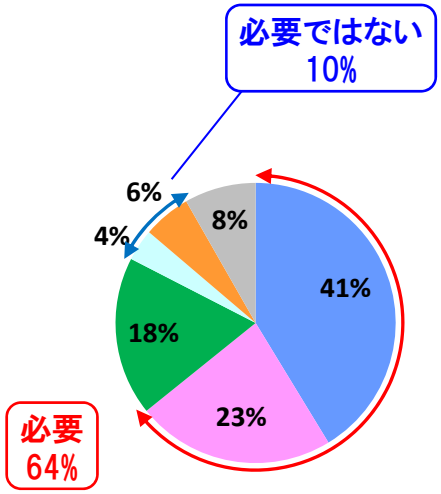
総回答者数　6,480人

【ほとんど利用したことがない】



総回答者数　1,589人

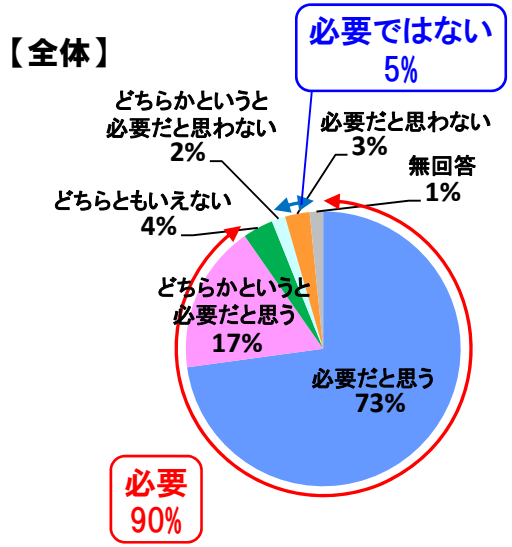
【利用したことがない】



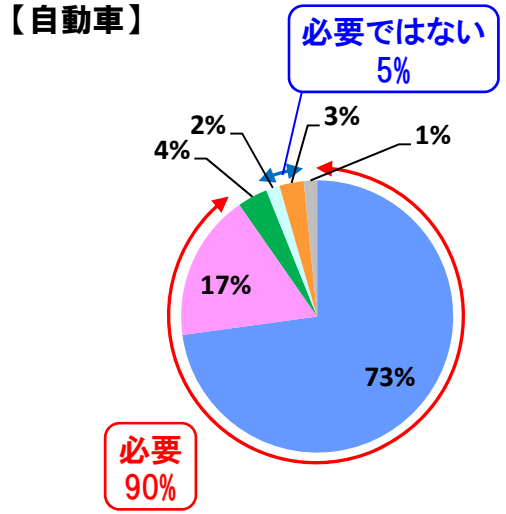
総回答者数　109人

2-1. 意見聴取の結果　住民等への調査票（移動手段別の道路整備の必要性）

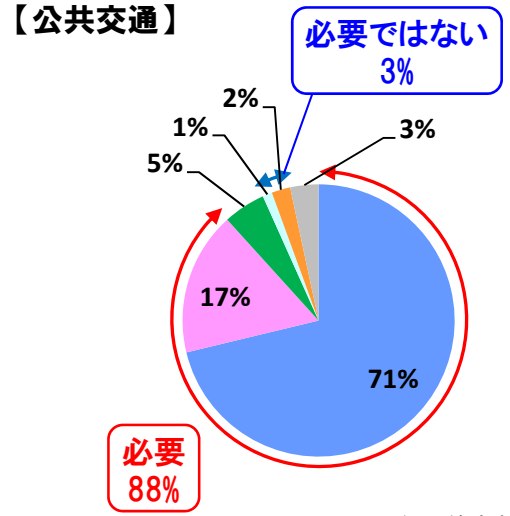
◆移動手段別に見ても、約9割の回答者が道路整備の必要性を感じており、「バイク」「徒歩」が最も割合が高い。



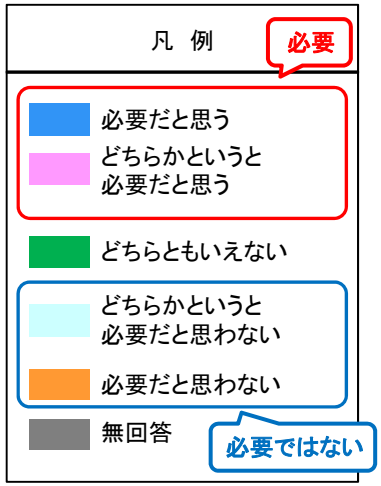
総回答者数　15,279人



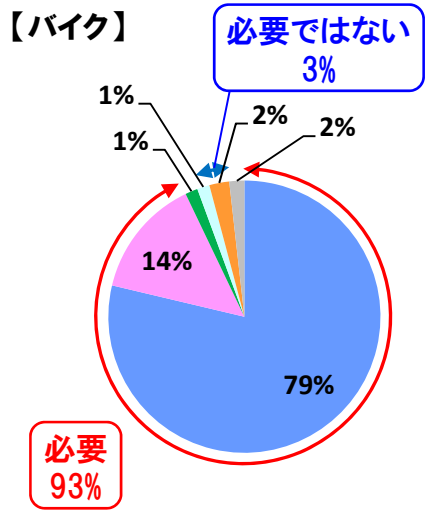
総回答者数　14,864人



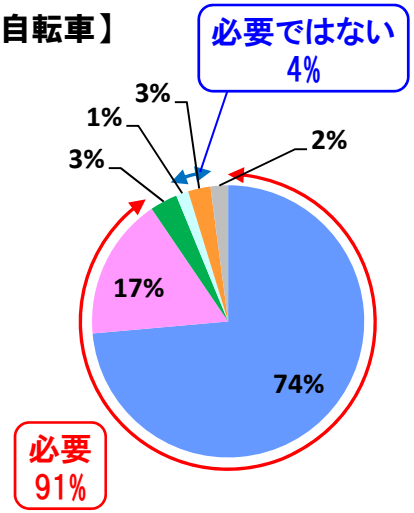
総回答者数　358人



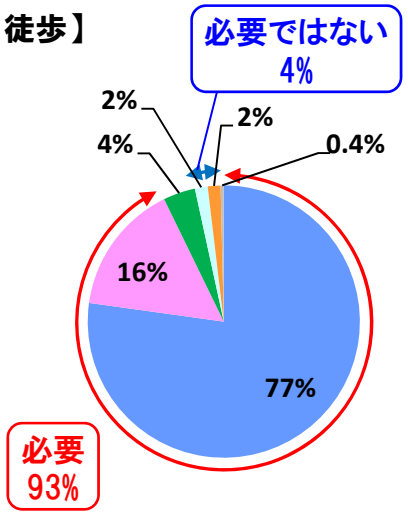
※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。



総回答者数　338人



総回答者数　337人

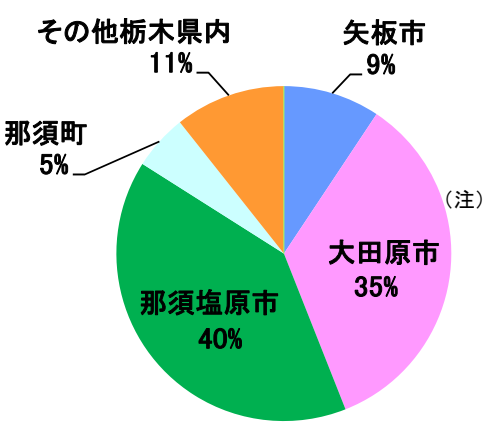


総回答者数　263人

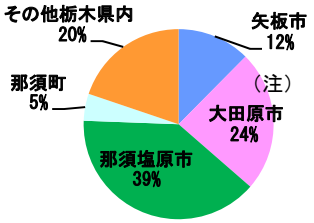
2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（地域区分・業種・利用頻度・目的）

◆回答企業の約9割が国道4号（矢板市～大田原市～那須塩原市間）を「月に数回程度」以上利用と回答し、その利用目的は「運送」が最も多い。

回答者の地域区分



【参考】関係団体配布数の地域区分

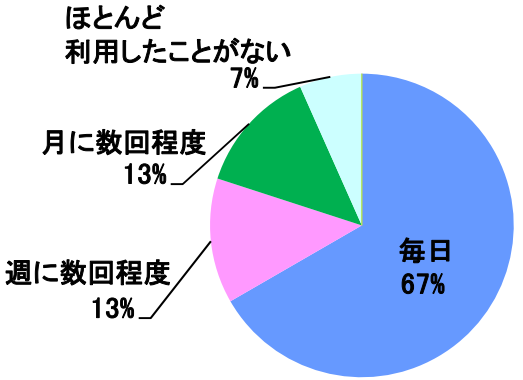


総回答企業数　75社

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある
（注）　大田原市は旧大田原市域を含む全域

国道4号の利用頻度

【質問①】国道4号（土屋交差点から二区交差点）の利用頻度について、回答して下さい。　（単数回答）

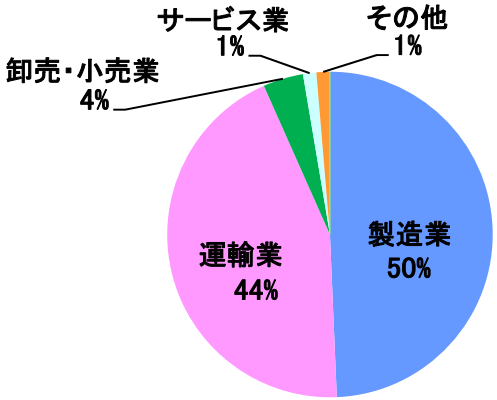


総回答企業数　75社

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

回答者の業種分類

【質問②】貴社の業種について回答して下さい。（単数回答）

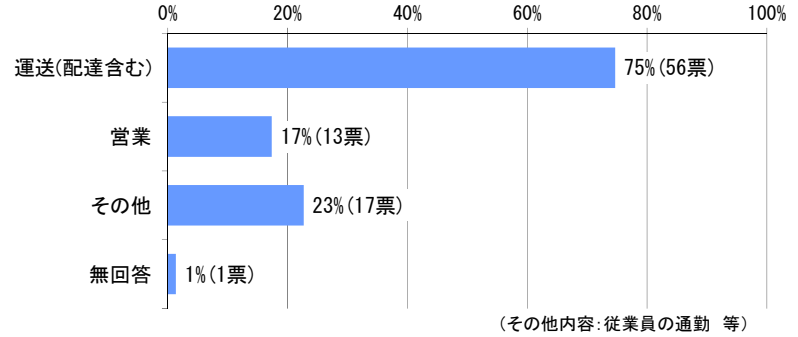


総回答企業数 75社

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

国道4号の利用目的

【質問③】土屋交差点から二区交差点間の主な利用目的について、回答して下さい。　（複数回答）



（その他内容：従業員の通勤　等）

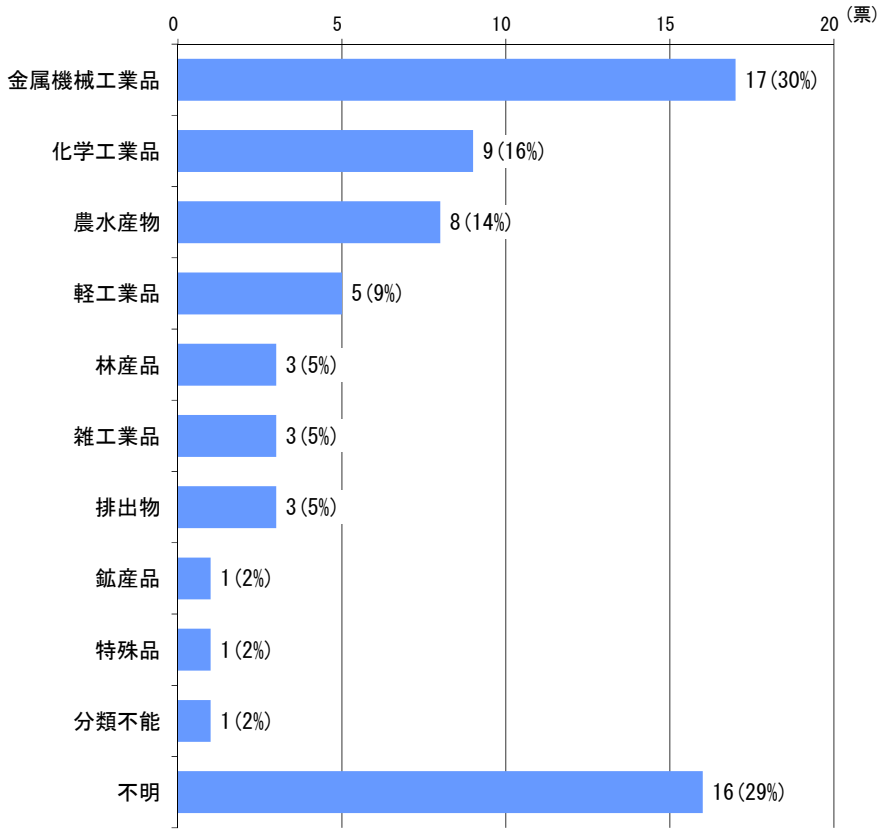
※割合は総回企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

総回答企業数　75社

2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（積載品目・出荷先・利用経路）

◆特徴として、「金属機械工業品」を運送している企業が最も多い。
◆回答企業の出荷先は「栃木県内」が約8割と最も多く、「埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県（首都圏）」が約7割、次いで「茨城県」が約6割。
◆高速道路を利用する場合は、東北道「矢板IC」の利用が最も多く、高速道路を利用しない場合は「国道4号」の利用が最も多い。

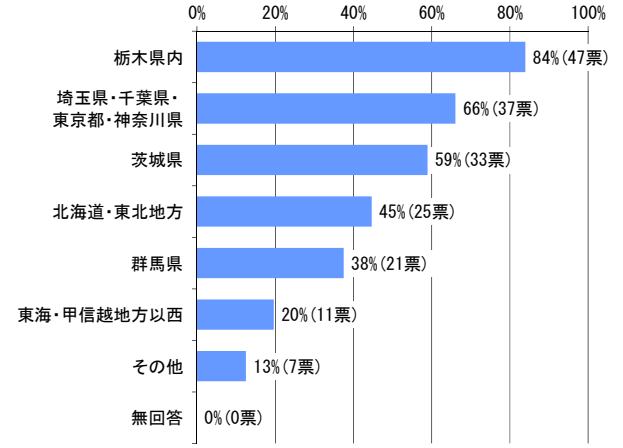
運送目的利用交通の積載品目



総回答企業数　56社

※割合は総回企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

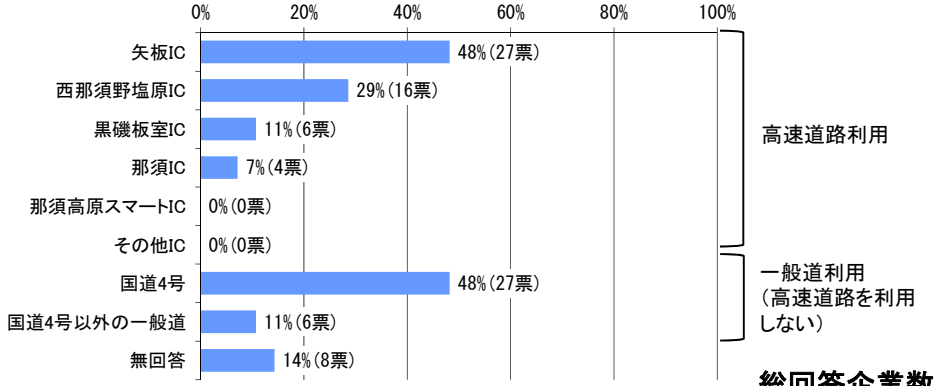
出荷先



総回答企業数
56社

※割合は総回企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

高速道路を利用する際の入口IC



総回答企業数
56社

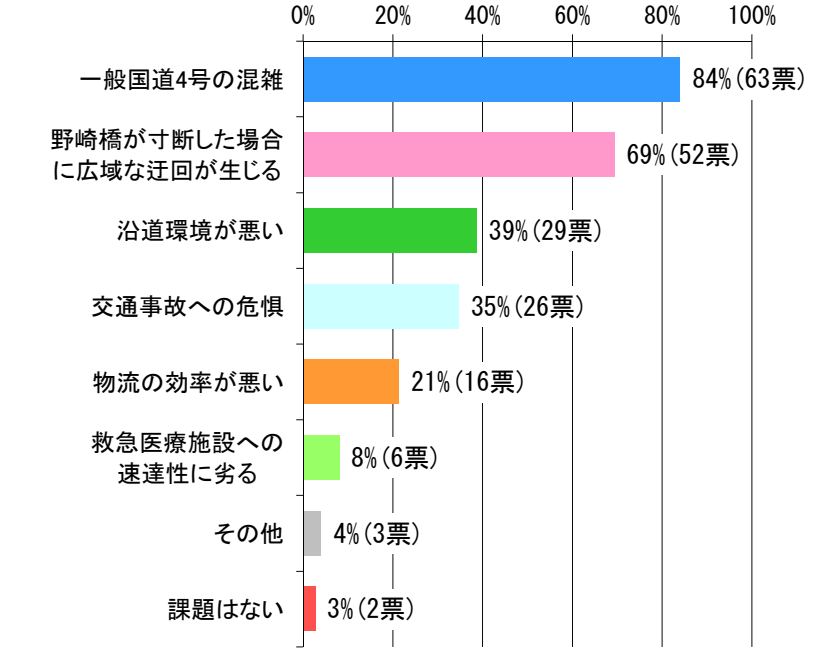
※割合は総回企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（地域の課題・政策目標）

◆地域の課題は、回答企業の約8割が「一般国道4号の混雑」、次いで約7割が「野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる」との課題を認識。
◆政策目標は、「交通容量の確保」が約9割と最も多く、次いで「災害に強い緊急輸送道路の確保」、「沿道環境の改善」が半数以上と多い。

地域の課題

【質問④】国道4号（土屋交差点から二区交差点）にはどのような課題があると思いますか。（複数回答）

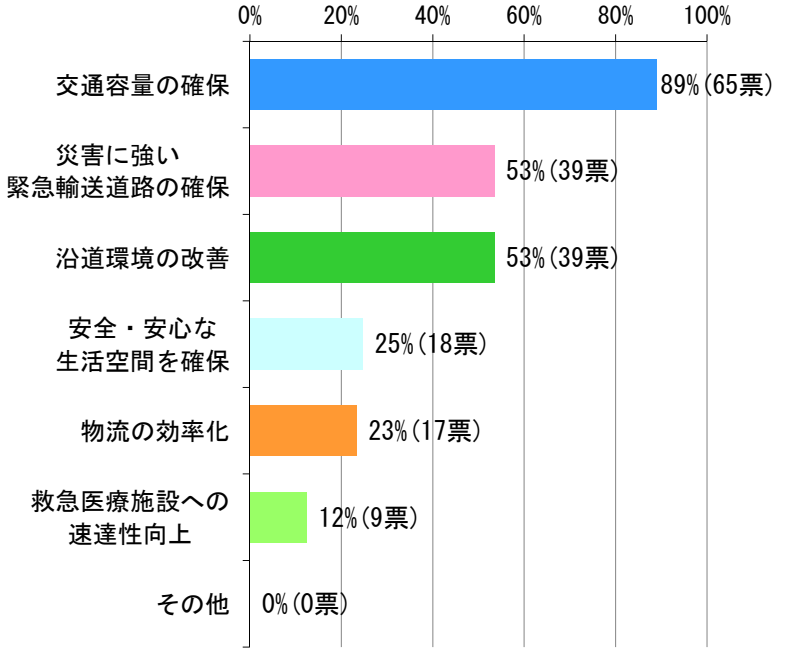


※割合は総回企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

総回答企業数 75社

課題を解決するための政策目標

【質問⑤】課題を解決するための政策目標として重要だと思うものを回答して下さい。（複数回答）



※割合は総回企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る
※ただし、質問④で「課題はない」を選択したものを除く

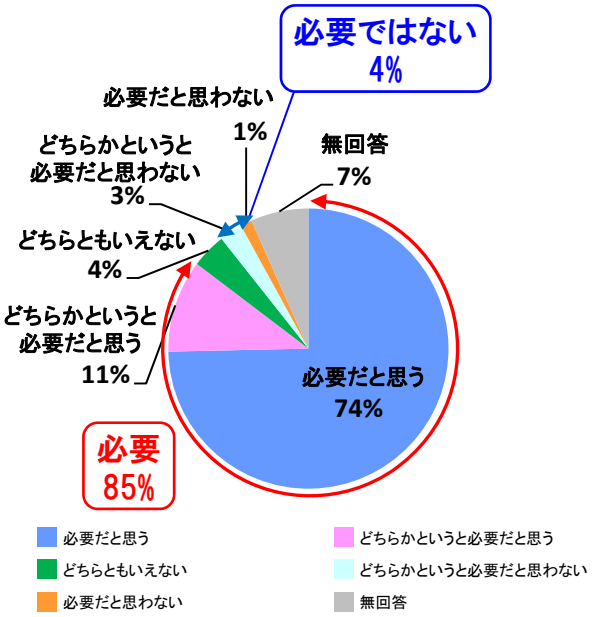
総回答企業数 73社

2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（道路整備の必要性とその理由）

◆約9割の回答企業が道路整備の必要性を実感。
◆道路整備の必要性において、「必要」と「必要ではない」と回答した企業の地域の課題を比較すると、項目の順位や割合が大きく異なる。

道路整備の必要性

【質問⑥】国道4号（土屋交差点から二区交差点）に道路の整備は必要だと思いますか。（単数回答）



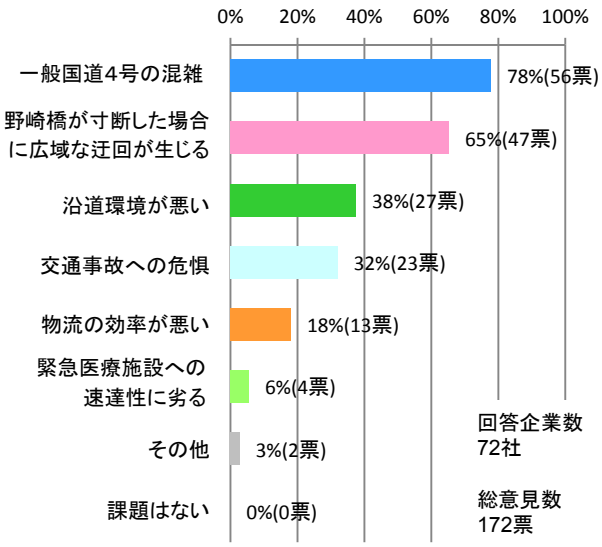
総回答企業数
75社

※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある

地域の課題

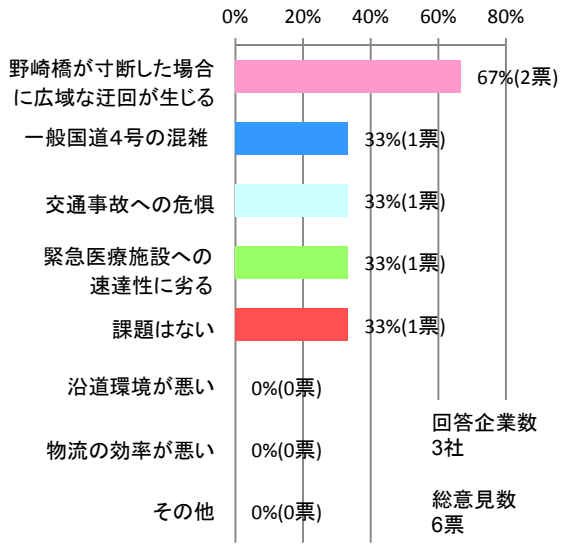
【質問④】国道4号（土屋交差点から二区交差点）にはどのような課題があると思いますか。（複数回答）

【課題(必要)】



※割合は「質問⑥で道路整備が必要、どちらかというと必要」の総回答数に対する回答数

【課題(必要ではない)】

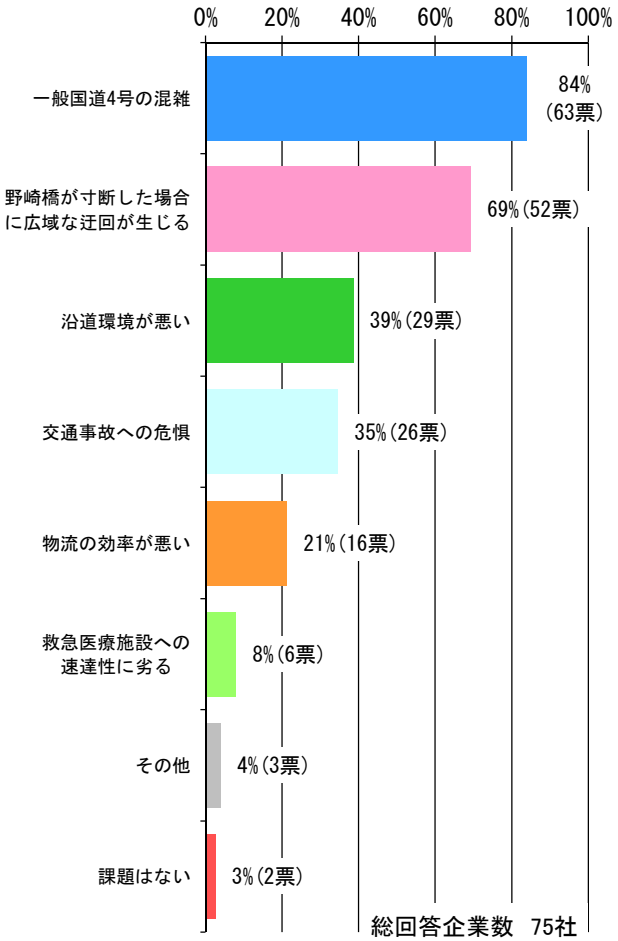


※割合は「質問⑥で道路整備が必要だと思わない、どちらかというと必要だと思わない」の総回答数に対する回答数

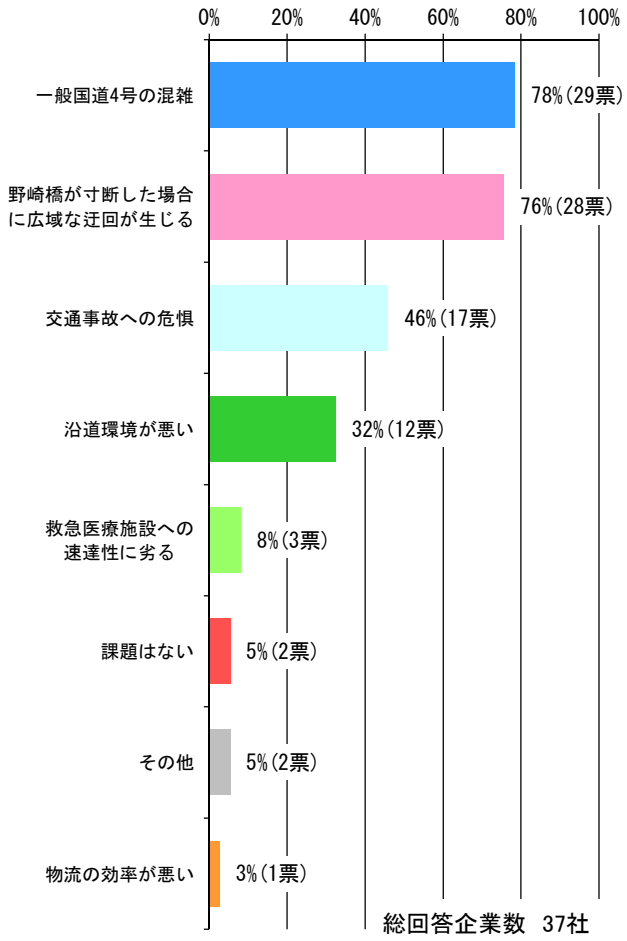
2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（業種別の地域の課題）

◆業種別でみても「一般国道4号の混雑」が約8割と最も多く、次いで約7割が「野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる」を課題として認識。

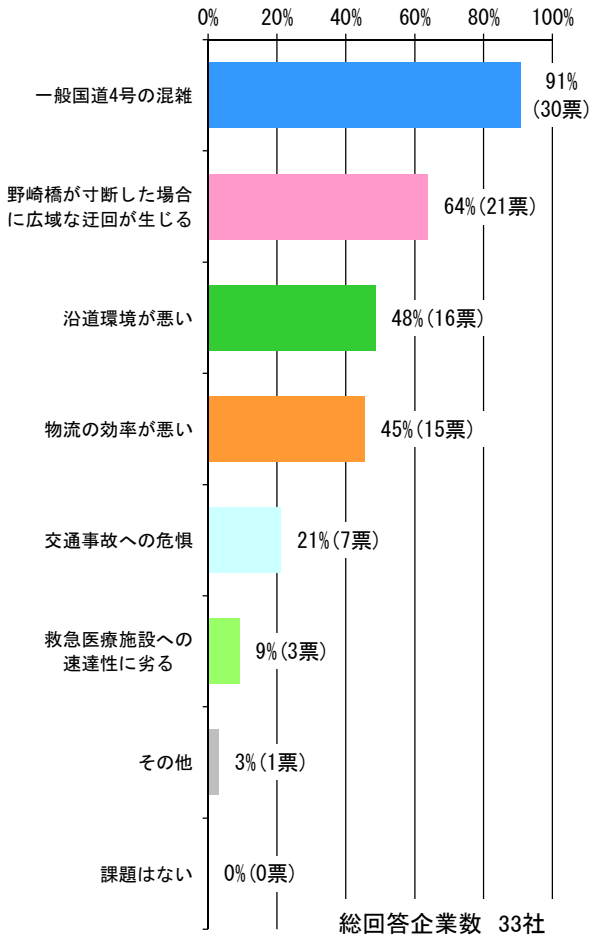
【全体】



【製造業】



【運輸業】

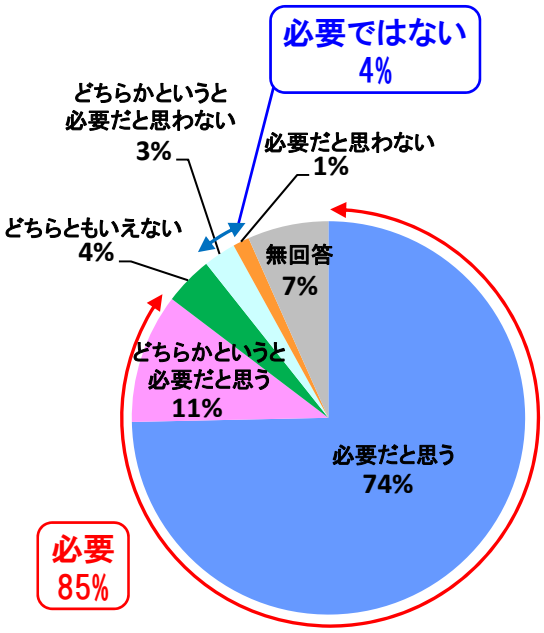


※割合は総回答企業数に対する当該選択肢を選択した企業の割合
複数回答のため、選択肢毎の割合の合計は100%を上回る

2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（業種別の道路整備の必要性）

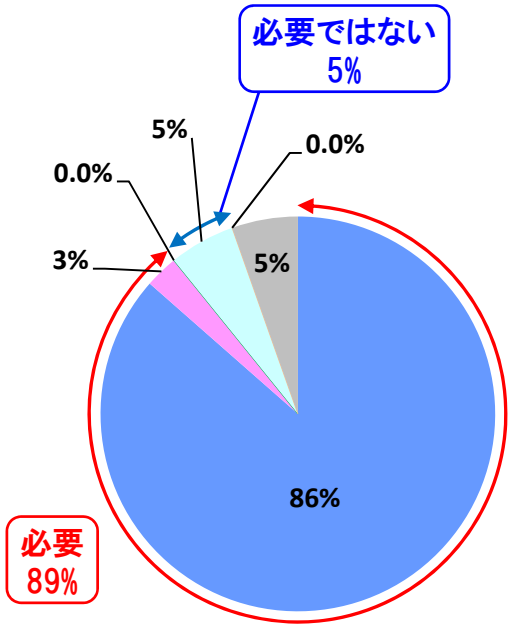
◆業種別の必要性については、製造業、運輸業のいずれも「必要だと思う」「どちらかというと必要だと思う」と回答。

【全体】



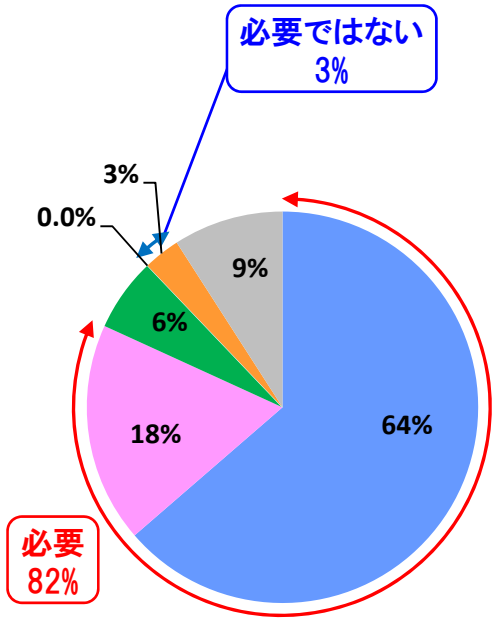
総回答企業数　75団体

【製造業】

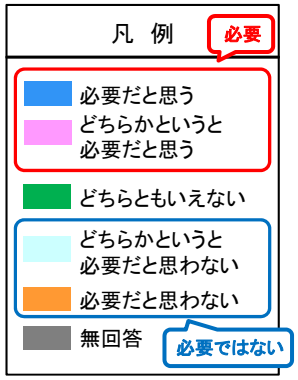


総回答企業数　37団体

【運輸業】



総回答企業数　33団体



※四捨五入の関係で構成比の合計が100%にならない場合がある。

2-2. 意見聴取の結果　関係団体への調査票（自由意見）

◆質問⑦の自由意見は、政策目標の「混雑緩和」「安全・安心」「物流」に関する意見があった。
◆質問⑧の自由意見は、「現在の道路で十分」に関する意見があった。

【質問⑦】 今後の道路整備にあたって配慮すべき事項があればお聞かせください。（自由回答）

分類		関係団体意見聴取による主な自由意見
対応する意見分類（政策目標に）	混雑緩和【17件】	• 大型トラックが多く、朝夕の慢性的に渋滞が発生しているので、渋滞緩和のために道路整備が必要。 • 交通量が多いのに車線が少ない。
	安全・安心【9件】	• 大田原市下石上（しもいしがみ）の国道4号は大型車両同士がすれ違う場合、（ドライバーとしても歩行者としても）圧迫感を感じる。歩道並びに車道の幅を広げて欲しい。 • 混雑の緩和も重要ですが、下石上（しもいしがみ）地区の急カーブ、狭さは危険度が高く、走行しやすいバイパスの整備が必要。
	物流【1件】	• 一般車と工業利用の車両が別れて利用できると良い。

【質問⑧】 道路整備を必要だと思わない理由についてお聞かせください。（自由回答）

分類	関係団体意見聴取による主な自由意見
現在の道路で十分　【2件】	• 今のままで（道路整備は）十分だと思うため。

【質問⑨】 その他ご意見がありましたらお聞かせください。（自由回答）

分類	関係団体意見聴取による主な自由意見
その他意見　【3件】	• 那須塩原の国道4号は工業団地があり、日常、多くのトラックやトレーラーが出入りしていますが、信号がなく困っている。

※掲載件数は、意見数に応じた。 意見数1～5件→1件、意見数6件以上→2件

2-3. 意見聴取の結果　関係団体ヒアリング（業種別の傾向）

◆国道4号の交通（混雑）、災害、交通事故の課題に関する意見は、全業種で挙げられ、課題として認識されている。
◆沿道環境への課題は、自治会だけでなく、工業団地、トラック協会等でも挙げられた。

凡例：
●：言及あり
－：言及なし

■関係団体ヒアリングにて課題や政策目標として言及した内容

業種 / 意見分類	教育機関 (3団体)	工業団地連絡協議会 (3団体)	トラック協会 (7団体)	商工会議所 (3団体)	観光協会 (8団体)	農業協同組合 (2団体)	消防本部 (3団体)	自治会 (2団体)
交通（混雑）	●	●	●	●	●	●	●	●
災害	●	●	●	●	●	●	●	●
沿道環境	●	●	●	●	-	-	-	●
安全・安心	●	●	●	●	●	●	●	●
物流	-	●	●	●	-	●	-	-
医療	-	-	-	-	-	-	●	●
その他意見	-	●	●	●	●	●	●	●

2-3. 意見聴取の結果　関係団体ヒアリング（地域課題等への意見）

◆主な意見として、混雑、災害、安全・安心に関する意見が多い。
◆国道4号の混雑に起因する意見として、通勤への負担、抜け道への進入による危険、産業活動への制約、救急搬送への支障などが挙げられている。

意見分類		意見の具体例
課題または政策目標に対応する意見分類	交通(混雑)【25件】	• 朝時間帯に、国道４号下り野崎橋付近で渋滞が発生し、社員の通勤の大きな負担となっている。【工業団地】 • 国道４号は朝夕とも渋滞しているため、ほとんどの従業員が抜け道を利用して通勤している。【工業団地】
	災害【23件】	• 往復２車線の国道４号で大型車の接触事故が発生すると、上下線ともに通行不能状態に陥る。先日の2/15の大雪では、東北道が通行止めになり、国道４号に交通が集中した。しかし、国道４号は片側１車線で遅い車があったり、立ち往生する車などで、大渋滞が発生した。【工業団地】 • 野崎橋は地理的に強風が吹く地域であり、事故や通行止めの影響が懸念されるため、野崎橋以外にも渡河部が必要だと思う。【農協】
	沿道環境【8件】	• 下石上（しもいしがみ）地区では、騒音、振動、大気汚染が本当に深刻。激しい振動で眠れないこともあり、日常生活に大きな支障を来している。生活環境の改善のために、すぐにでも道路整備が必要。【自治会・商工会】
	安全・安心【20件】	• 遠回りになるが、生徒の安全を考え、国道４号をなるべく避けるように通学路を設定している。【教育】 • 中北交差点から佐藤病院前の交差点間のスクールバスのルートは生活道路であるにも関わらず朝の国道４号の混雑を避けた抜け道車両が進入している。抜け道は歩道がなく危険であるため、児童の自宅から停留所までの間に不安があり、親が同伴している。【教育】
	物流【11件】	• 工業団地では、国道４号の混雑を避けた夜間の搬送物流を行っている。混雑が企業活動に制約をもたらしている。【工業団地・商工会】 • 野菜を翌朝スーパーなどへ出すためには、市場取引時刻である22時までに市場へ到着する必要があり、それまでに運べるのは横浜が限界。市場到着が22時を過ぎる「延着」は、鮮度、商品価値、販売価格が落ち、投げ売り状態になる。国道４号の渋滞がなくなれば、販路が拡大する可能性もある。【農協】
	医療【5件】	• 大田原市には３次医療施設、２次医療施設があり、矢板市の病院の受け入れが不能な場合など矢板市から大田原市への搬送回数は多い。　その際に国道４号の野崎橋を利用するが、混雑が迅速な搬送に支障をきたしている。【消防】
その他意見【33件】		• 観光交通は、景色を楽しみながら走行できることが重要であるが、狭い幅員での２車線道路ではそれが難しく、観光客を呼び込むことは難しい。【商工会】 • 国道４号の混雑により、ツアーなど予定通りの行動ができない懸念がある。【観光協会】

※掲載件数は、意見数に応じた。 意見数1～10件→1件、意見数11～40件→2件

2-3. 意見聴取の結果　関係団体ヒアリング（東北道と一般国道4号の利用特性）

◆東北自動車道の利用特性は、主に時間制約を受ける場合や、精密機械などの特殊機械の搬送などに利用されている。
◆一般国道4号の利用特性は、主に経費削減が求められる場合や短距離交通などに利用されており、東北道が通行止めになった場合の代替路として利用されている。

項目	東北自動車道	一般国道４号
優先する事項	**■時間制約** • 時間指定の場合。【トラック協会】 • 空輸するために遅延が許されない貨物の運送。（野崎工業団地→羽田空港・成田空港）【工業団地】	**■経費節減** • 出荷先の工場で朝9時に荷降ろしする場合は、運送経費節減のために夜中のうちに国道４号で搬送。【工業団地】【トラック協会】 • 青森県から首都圏に搬送する場合も、時間に余裕があれば、経費節減のために、国道４号を利用する。【青森県トラック協会】
出発地および目的地（OD）・積載品目	**■東北から首都圏への生鮮食品搬送等** • 夜22時までに市場到着が必須な生鮮食品を東北地方から運送する場合。（東北地方→首都圏）【東北地方のトラック協会】 • 高価格で振動に弱い精密機械の全国への搬送。（野崎工業団地→全国）【工業団地】	**■栃木県北から首都圏や宇都宮市への一般的な搬送** • 栃木県北から首都圏はそれほど遠くなく、また国道４号→新４号国道が利用しやすいため、首都圏への一般的な搬送では高速道路は使わない。（栃木県北→首都圏）【工業団地】【栃木県トラック協会】 • 宇都宮市中心部には東北道よりも国道４号の方がアクセスしやすい。（野崎工業団地→宇都宮市）【工業団地】
救急搬送	**■搬送先：宇都宮市** • 宇都宮市内の病院に転院搬送する場合は、所要時間、振動低減、運転難易度により高速道路を利用。ドクターからも指定される。（県北→宇都宮市）【消防】	**■搬送先：県北地域内** • 矢板市から大田原市（那須赤十字病院、那須中央病院、国際医療福祉大学病院など）の搬送【消防】 • 大田原市から矢板市（国際医療福祉大学塩谷病院など）の搬送【消防】
観光	**■出発地からのアクセスルート** • 首都圏や東北からのほとんどの観光客は、高速道路を利用していると思われる。【観光協会】	**■県北地域の周遊ルート** • 観光地の那須高原を中心に県北地域の周遊観光を促進したいが、その際に国道４号を利用すると思われる。【観光協会】
災害・大雪発生時の影響	**■東日本大震災直後に通行止め規制発生** **■H26.2月大雪発生時に通行止め規制発生**	**■東北道通行止めの影響を受け大渋滞が発生** • 今年の大雪に限らず、東北道が通行止めになった場合は、必ず国道４号では大渋滞が発生し、物流に大きな障害が発生する。【トラック協会】 • 東北道の通行止めなど国道４号が大渋滞する場合は、野菜の収穫時刻を早める必要がある。農家には負担。【農協】
東日本大震災後の利用機会増加	（利用機会変化について意見なし）	**■利用機会の増加** • 震災前は、千葉・茨城方面は国道６号を利用していたが、原発事故による通行止め規制の影響で、現在は一般道利用は全て国道４号を利用している。【岩手県トラック協会】

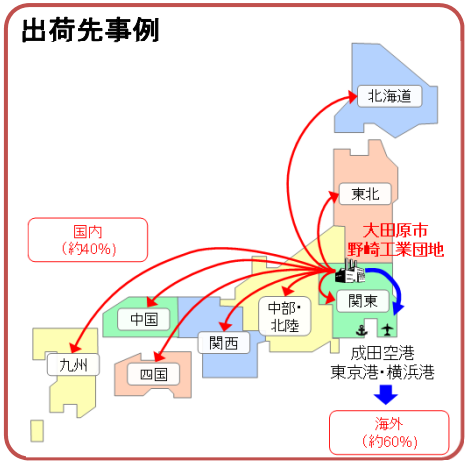
2-3. 意見聴取の結果　関係団体ヒアリング（精密機械・生乳の搬送等事例）

◆精密機械、生乳いずれの搬送においても国道4号の混雑により、時間に余裕をみて搬送を行っている。

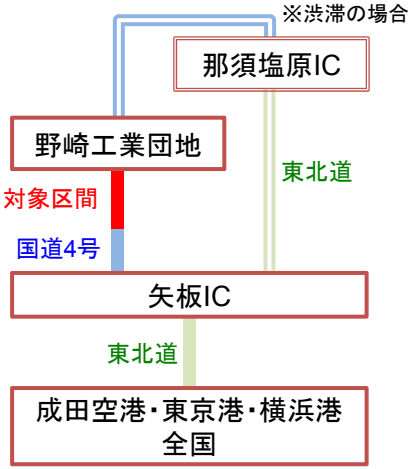
◆混雑の緩和により、業務効率が図られることから、道路整備に対し期待が寄せられている。

精密機械の搬送等事例

出荷先事例



搬送ルート事例



出荷への影響

- 野崎工業団地から矢板ICまで渋滞時は30分以上要する。時間に余裕を見て搬送する必要がある。国道4号が渋滞している場合は、遠回りになるが那須塩原ICを利用する。

事業活動への影響

- 複数の部品を組合せて製品が完成するため、国道4号が事故などでストップすると、事業そのものがストップする。
- また従業員が大量に遅刻し、生産ラインに遅れが発生する。

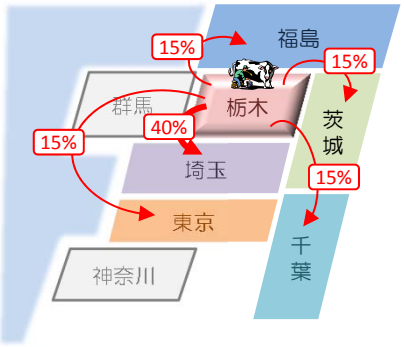
道路整備への期待

- 国道4号の渋滞がなくなれば、業務の効率化が図られ、またドライバーの負担も軽減する。
- 業務支援にために、道路整備を期待する。

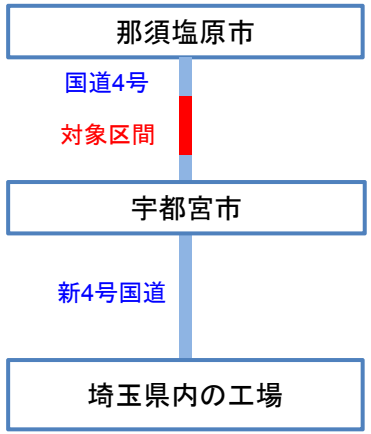
（H24.2,H26.3 ヒアリング結果）

生乳の搬送等事例

出荷先事例



搬送ルート事例（埼玉県の場合）



出荷への影響

- 矢板まで非常に混雑しているため、搬送時間に余裕を見ている。
- 大田原市下石上地区は道路が狭く、非常に危険を感じる。

道路整備への期待

- 牛乳はフレッシュさを売りにしているため、早く運ぶことが出来れば、より鮮度の高い商品を全国に提供することが出来る。
- 乳業メーカの都合で、搬送先の変更や積出し時刻の変更がごく当たり前に発生する。国道4号が整備されれば、国道4号の混雑で余裕を見ている搬送時間を短くすることができ、より臨機応変に対応が可能になる。
- 定時定量の搬送が売りのため、道路整備を期待する。

（H24.3 ヒアリング結果）

2-4. 第1回意見聴取の結果のまとめ

地域が感じている一般国道4号の課題

○一般国道4号の混雑
⇒【政策目標】混雑の緩和

○野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる
⇒【政策目標】災害に強い緊急輸送道路の確保

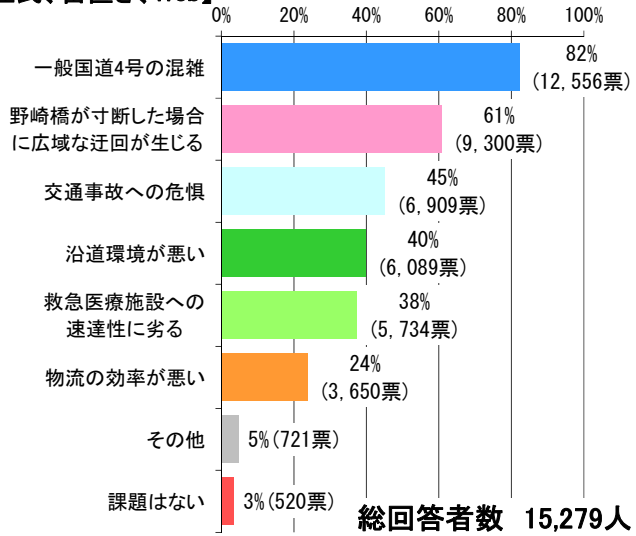
○沿道環境が悪い
⇒【政策目標】沿道環境の改善

○交通事故への危惧
⇒【政策目標】安全・安心な生活空間を確保

○物流の効率が悪い
⇒【政策目標】物流の効率化

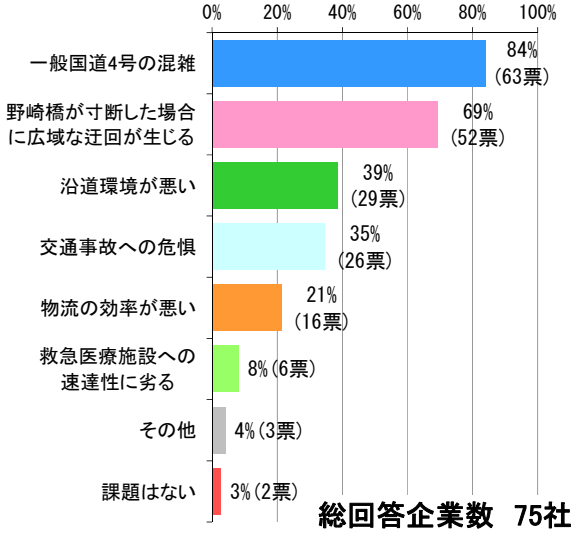
○救急医療施設への速達性に劣る
⇒【政策目標】救急医療施設への速達性向上（搬送時間の短縮）

【住民、留置き、Web】



総回答者数　15,279人

【関係団体】



総回答企業数　75社

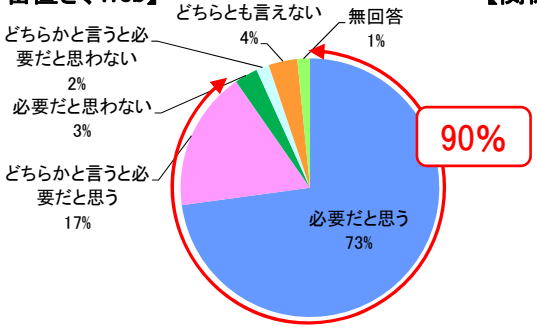
第1回意見聴取における道路整備の必要性に対する回答結果

道路整備の必要性について

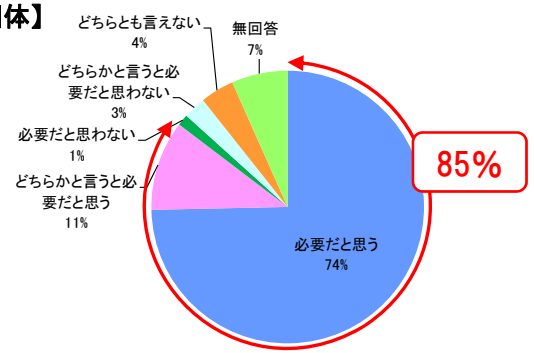
- **「住民」「関係団体」ともに、回答者の約9割が「道路整備が必要」と回答。**
- **国道4号の利用頻度が高いほど、「道路整備が必要」と回答する割合が高い。**

住民や関係団体など道路利用者の多くが道路整備の必要性を認識

【住民、留置き、Web】



【関係団体】



まとめ

- **第1回地域の意見聴取で提示した政策目標は、地域が感じている一般国道4号の主な課題を網羅。**
- **住民と関係団体の回答をいただいた皆さまの多くが、道路整備の必要性を感じている。**

必要とされる道路整備に向けて「矢板・大田原・那須塩原地域の政策目標を達成するための機能」を有するルートを検討

３．対応方針（ルート帯案）について

3-1. 対応方針（ルート帯案）の考え方

◆地域の課題を解決するための対応方針を検討。

◇地域の課題を早期に解決する政策目標の案を設定

地域の状況と課題

地域の将来像

住民等のニーズ、課題認識

交通	混雑の緩和
リダンダンシー	災害に強い緊急輸送道路の確保
環境	沿道環境の改善
事故	安全・安心な生活空間を確保
産業	物流の効率化
医療	救急医療施設への速達性向上（搬送時間の短縮）

◇対策案の検討

【交通関連】
・交通混雑を緩和する円滑な道路とは

【災害関連】
・災害時に強い緊急輸送道路とは

【環境関連】
・家屋連担地域における沿道環境を改善する道路とは

【事故関連】
・安全・安心な生活空間を確保する道路とは

【産業関連】
・物流効率化を図る道路とは

【医療関連】
・広域化する救急搬送の搬送時間を短縮する道路とは

当該地域に求められるサービスとは

交通量に対応した交通容量を確保し、混雑緩和

幌川（ほろかわ）渡河部の道路ネットワークを強化

家屋連担地域における沿道環境を改善

安全・安心な生活空間を確保

混雑緩和により旅行速度の向上を図り、物流を効率化

旅行速度の向上により、第三次救急医療施設への搬送時間を短縮

地域の課題を解決し、地域の将来像を実現するルート帯案を設定

3-1. 対応方針（ルート帯案）の考え方

◆第1回意見聴取で地域の課題、政策目標等について確認したことから、コントロールポイントや配慮すべき事項を踏まえて、ルート帯案を設定する。

◆設定したルート帯案が各政策目標にどう資するのかなどを整理し、第2回意見聴取で地域がより重視する政策目標を設定することで、地域のニーズを十分に踏まえたものであるかを確認する。

政策目標	混雑の緩和	災害に強い緊急輸送道路の確保	沿道環境の改善	安全・安心な生活空間を確保	物流の効率化	救急医療施設への速達性の向上（搬送時間の短縮）
ルート帯選定のポイント	・交通の集中を分散できるか ・交通容量を確保できるか	・筈川渡河部の緊急輸送道路を強化できるか ・筈川渡河部で新たな代替路を確保できるか	・現道の交通量が減少し、石上小周辺の沿道環境を改善できるか	・現道の交通量が減少し、石上小周辺の安全・安心な生活空間を確保できるか ・歩行、走行スペースが確保され、石上小周辺の安全・安心な生活空間を確保できるか	・混雑が緩和し、物流の効率化が図られるか	・第3次救急医療施設への速達性が向上できるか

【その他】 ・自然環境への影響は少ないか ・沿道施設への出入りが容易か ・市街地、集落が分断されないか
・支障家屋数が少ないか ・事業費が大きすぎないか

バイパス整備により政策目標を達成する案 → 【案①】バイパス案

現道拡幅により政策目標を達成する案 → 【案②】現道拡幅案

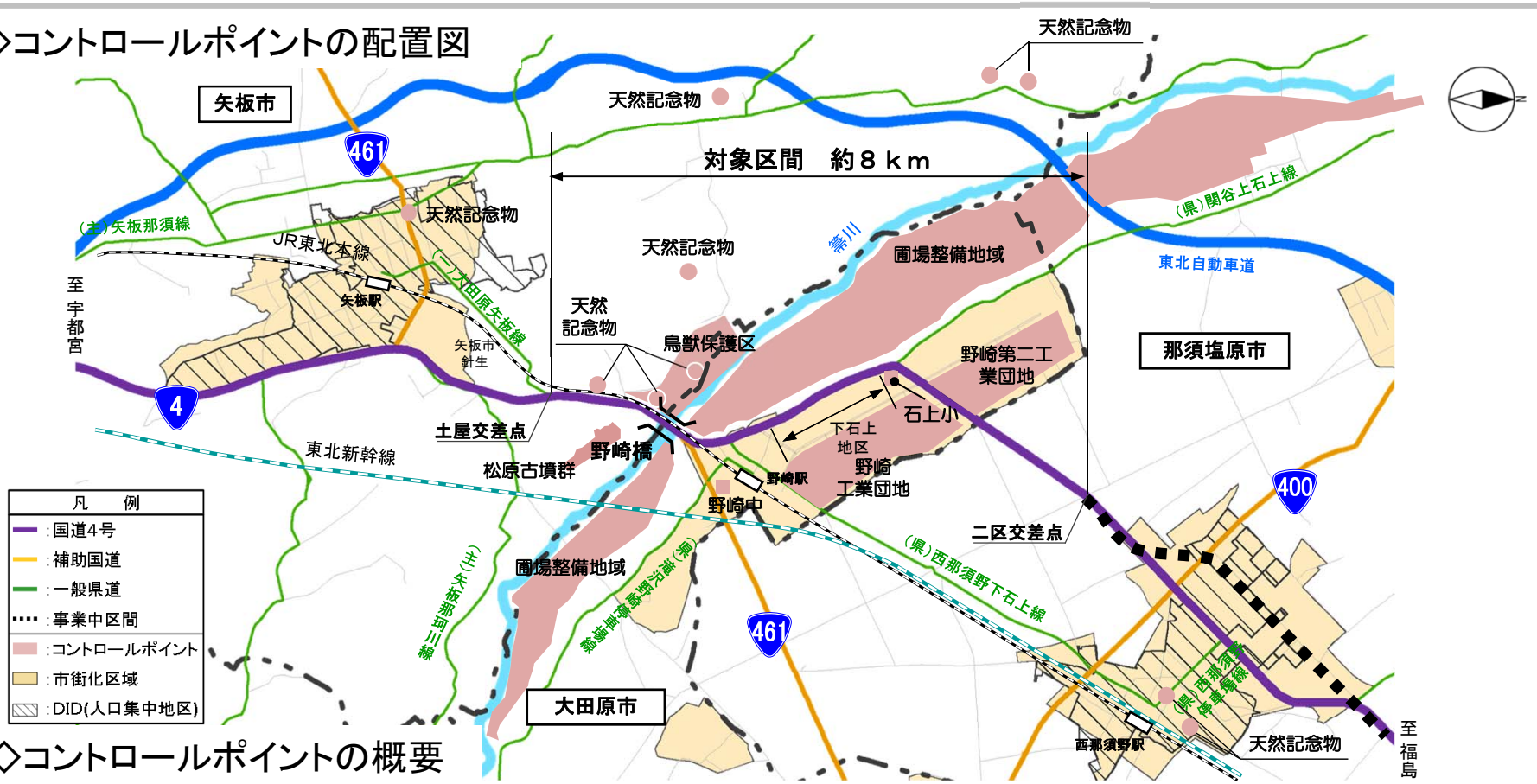
◇比較案

【案①】バイパス案 ・・・筈川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備し、残りの区間は現道2車線を拡幅する案。
【案②】現道拡幅案 ・・・現道2車線を拡幅する案。

3-2. コントロールポイントの考え方

◆天然記念物、学校などのコントロールポイントを極力回避するとともに、圃場整備地域の区画などに配慮する。

◇コントロールポイントの配置図



◇コントロールポイントの概要

回避すべき施設等	自然的状況による要因	◆天然記念物（植物、動物の繁殖地）
	社会的状況による要因	◆学校（石上小学校、野崎中学校）　◆工業団地（野崎、野崎第2）　◆鉄道（東北新幹線） ◆松原古墳群
配慮すべき事項	自然的状況による要因	◆箒川（ほうきがわ）
	社会的状況による要因	◆鉄道（JR東北本線）　◆圃場整備地域の区画
	環境関係法令等による要因	◆鳥獣保護区

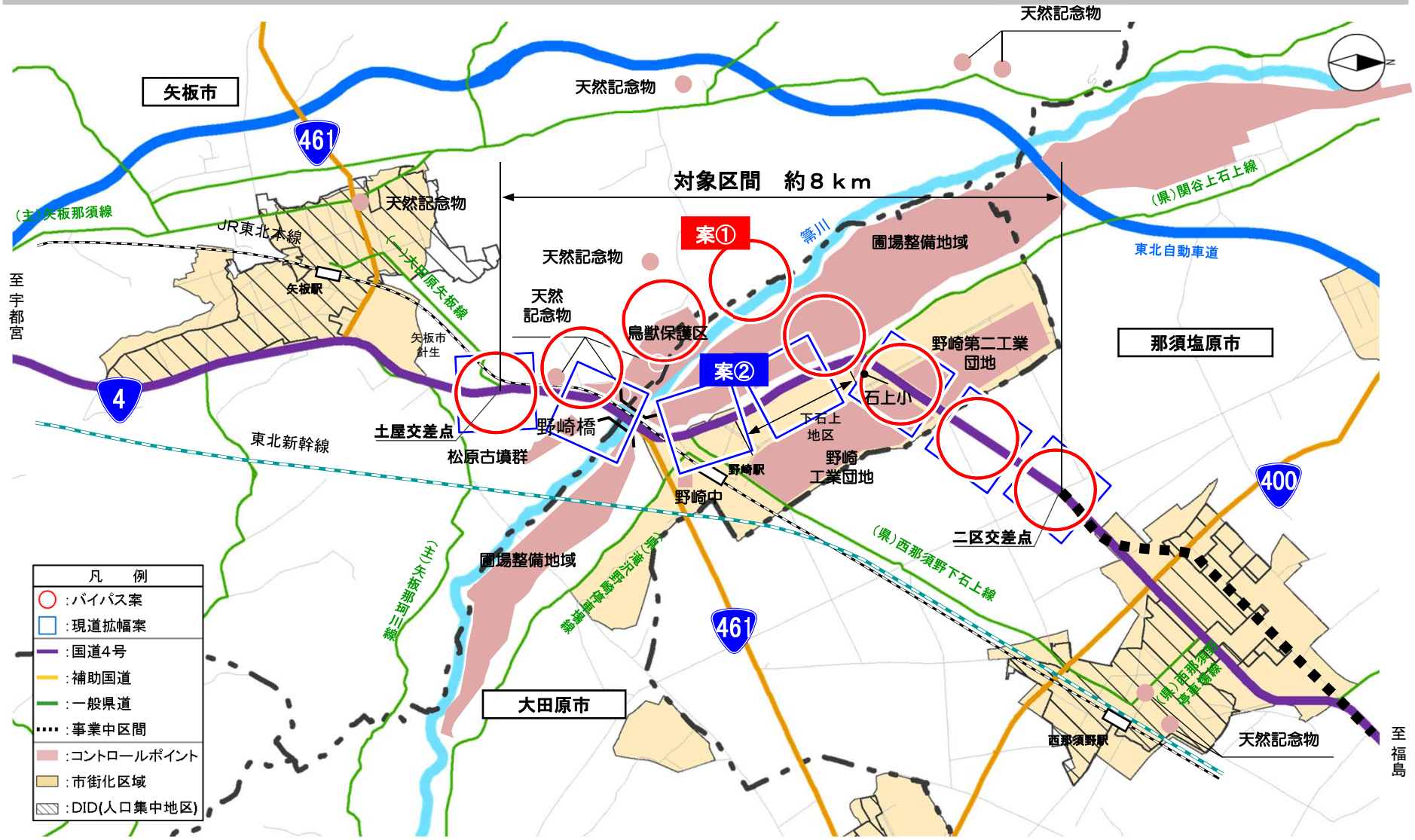
※コントロールポイントとは、社会的影響が大きく回避すべきポイント。

3-3. ルート帯案の概要

◇ルート帯案

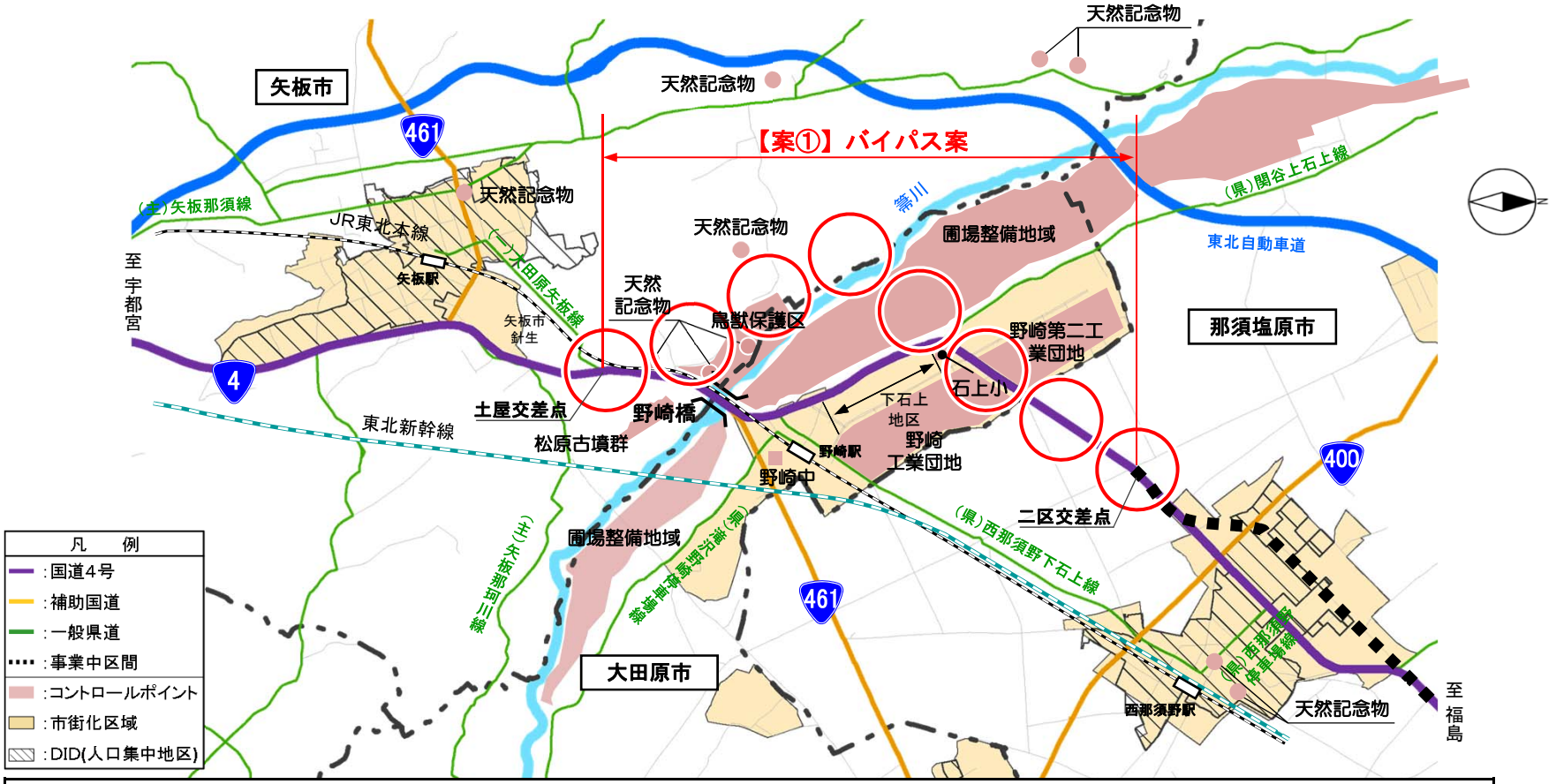
【案①】バイパス案　・・・箒川（ほうきがわ）渡河部及び石上（いしがみ）小周辺をバイパス整備し、残りの区間は現道2車線を拡幅する案

【案②】現道拡幅案　・・・現道2車線を拡幅する案



3-4. ルート帯案の検討（バイパス案）

◆箒川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備し、残りの区間は現道2車線を拡幅する案。



【特徴】

バイパス案

⇒箒川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備することで交通容量を確保し、現国道4号の混雑緩和が可能。

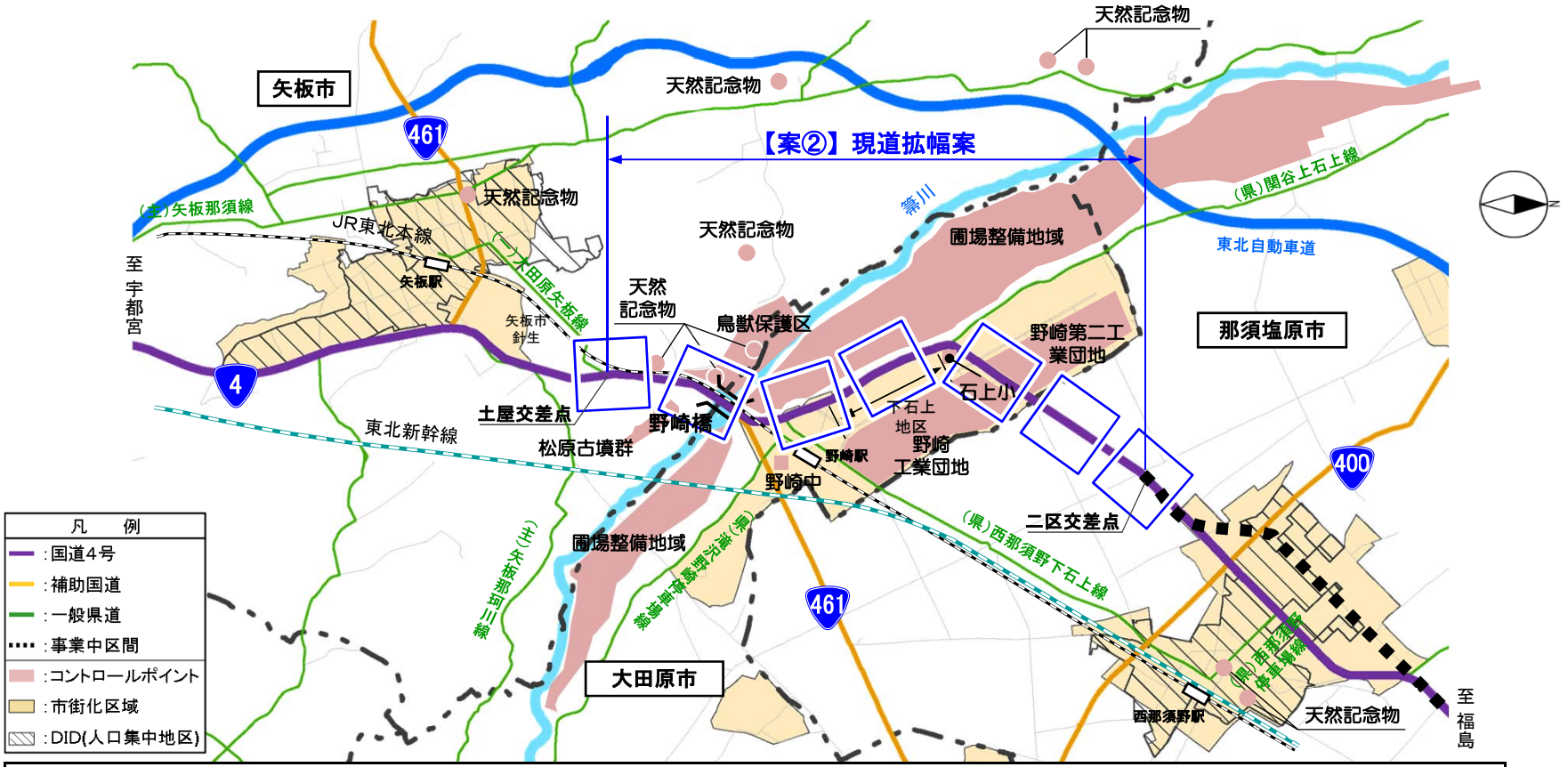
⇒箒川渡河部に別ルートの新たな代替路が確保され、道路ネットワークの強化が可能。

⇒石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られ、家屋連担地での交通量が減少し、安全・安心な生活空間の確保および沿道環境の改善が可能。

⇒バイパス区間では、天然記念物等の自然環境への配慮が必要。

3-5. ルート帯案の検討（現道拡幅案）

◆現道2車線を拡幅する案。



【特徴】

現道拡幅案

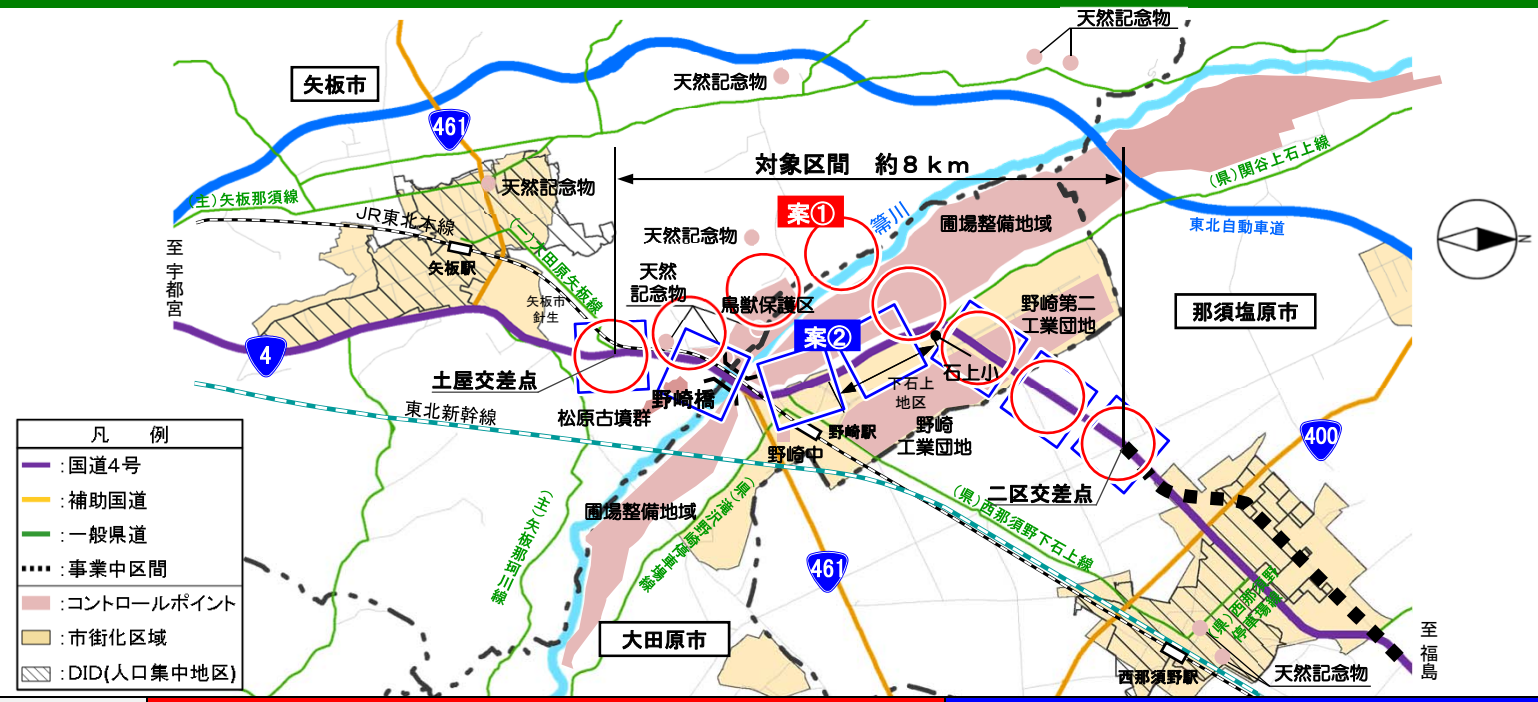
⇒拡幅による交通容量の確保により、現国道4号の混雑緩和が可能。

⇒箒川渡河部を拡幅するための新橋が設置され、上下線が分離することで、道路ネットワークの強化が可能。

⇒歩道や車道が広がり、歩行スペースや走行スペースが確保され、安全・安心な生活空間の確保が可能。一方で大型車などが現道を通過するため、家屋が連担する下石上地区の沿道環境は現状とあまり変わらない。

⇒天然記念物は回避しており、自然環境への影響を与える可能性は小さい。

3-6. ルート帯案の概要



比較案		【案①】バイパス案	【案②】現道拡幅案
ルート案の趣旨		箒川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備し、残りの区間は現道2車線を拡幅する案	現道2車線を拡幅する案
政策目標	混雑の緩和	• 箒川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られるとともに、現道を拡幅する区間でも交通容量（車線数）の確保により、現道の混雑が緩和される。	• 交通容量（車線数）の確保により、現道の混雑が緩和される。
	災害に強い緊急輸送道路の確保	• 箒川渡河部をバイパス整備することにより、新たな代替路が確保されるため、野崎橋が寸断しても広域な迂回が回避できる。	• 野崎橋近隣に新たな橋梁が設置されるため、緊急輸送道路が強化されるが、新たな代替路は確保されない。
	沿道環境の改善	• 石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られ、現道の交通量減少により騒音や排ガスなどが低減し、家屋連担地の沿道環境が改善される。	• 大型車などの交通が現道を通過するため、騒音や排ガスなどの低減が見込まれず、沿道環境は現状とあまり変わらない。
	安全・安心な生活空間の確保	• 石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られるため、現道の大型車交通量の減少により、家屋連担地の安全・安心な生活空間が確保される。	• 現道拡幅により歩道や車道が広がり、歩行スペースや走行スペースが確保されるため、家屋連担地である下石上地区の安全・安心な生活空間が確保される。
	物流の効率化	• 箒川渡河部及び下石上地区・石上小周辺をバイパス整備することにより、交通容量が確保されるとともに、現道を拡幅する区間でも交通容量が確保されるため、混雑緩和により高速ICまでの定時性が向上する。	• 現道拡幅により交通容量が確保されるため、現道の混雑緩和により高速ICまでの定時性が向上する。
	第三次救急医療施設への速達性	• 箒川渡河部をバイパス整備することで交通転換が図られるため、現道の混雑緩和により、三次救急医療施設への速達性が向上する。	• 車線数増加により救急車両優先の走行スペースが確保でき、三次救急医療施設への速達性が向上する。
その他	自然環境への影響	• バイパス区間では、天然記念物（植物、動物の繁殖地）に影響を与える可能性があるため、配慮が必要。	• 天然記念物（植物、動物の繁殖地）は回避しており、影響を与える可能性は小さい。
	沿道施設への出入り	• バイパス区間では、沿道施設への出入りは想定していない。現道を拡幅する区間では、車線数増加により道路幅員が広がるため、沿道への出入りが困難となる。	• 車線数増加により道路幅員が広がるため、沿道への出入りが困難となる。
	地域分断	• バイパス区間では、一部地域が分断され、道路を拡幅する区間では、車線数増加により沿道出入りや横断が困難となるため、一部地域で分断が生じる。	• 車線数増加により市街地で沿道出入りや横断が困難となるため、地域分断が生じる。
	影響する家屋数等	約50棟（宅地面積：約2万㎡）	約140棟（宅地面積：約6万㎡）
	事業費	約230～270億円	約260～300億円

４．地域の意見聴取（第２回）の方法について

4-1. 意見聴取の内容

◆2回目の意見聴取の内容は、第1回意見聴取の結果の妥当性を確認するための質問のほか、ルート帯案が地域のニーズを十分に踏まえたものであるかを確認するための地域がより重視する政策目標に関する質問を設定。

■意見聴取（第2回）の内容

意見聴取の項目	意見聴取の内容	回答方法
①地域の意見聴取（第1回）の結果について	地域の意見聴取結果（第1回）は妥当か	選択式（1つ）
	結果が妥当だと思わない理由は	自由回答
②ルート帯案を選択する際に重視すべき項目について	ルート帯に重視すべき項目は何か	選択式（最大3つ）
③検討にあたって配慮すべき事項等	具体的にルートを検討する際に配慮すべき事項の自由意見	自由回答

4-2. 意見聴取の対象者と方法

■意見聴取の方法

調査票形式			
住民等	沿線住民	（矢板市、大田原市のうち旧大田原市域、那須塩原市への全戸配布）	79,650世帯
	沿線住民及び周辺住民	（矢板市、大田原市、那須塩原市、那須町の住民）	市町役場（留置き）
	一般市民	（広く一般の人々）	Web
関係団体	製造業	（周辺工業団地の会員企業）	239社
	運輸業	（栃木県トラック協会塩那支部会員企業）（国道4号通過各都県トラック協会）	
	教育機関	（沿線小・中学校）	
	経済団体	（周辺市町の商工会議所・観光協会）	
	農業協同組合	（周辺市町の農業協同組合）	
	消防本部	（周辺市町の消防本部）	

■意見聴取の周知方法

情報提供の方法
県北地域の各市町のホームページに地域の意見聴取（Web）のバナーを設置
新聞広告、チラシ、宇都宮国道事務所ホームページ等で幅広く広報を実施

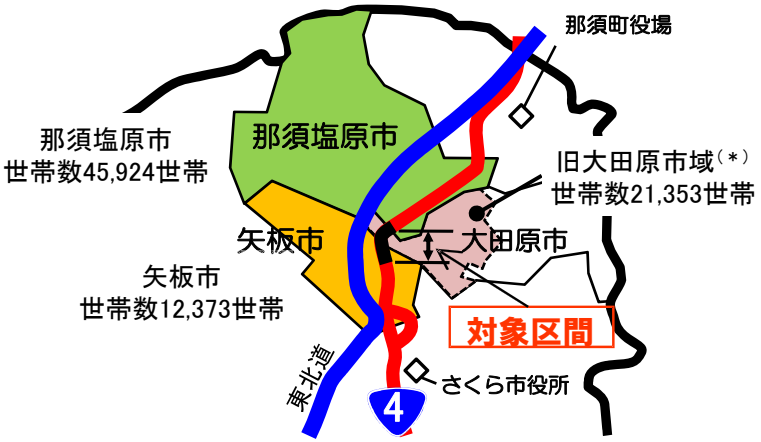
■意見聴取期間

◇1ヶ月程度

■実施主体

◇国土交通省宇都宮国道事務所

■意見聴取（住民等）対象地域



（＊）大田原市における住民への郵送は旧大田原市域のみ

※世帯数は、H26.4.1現在住民基本台帳

4-3. 意見聴取資料案

①調査概要

②地域の意見聴取（第１回）の結果

資料3

地域のみちづくりに皆さまの声をお聞かせ下さい。

一般国道４号　栃木県矢板市～大田原市～那須塩原市間の計画検討に関する地域の意見聴取（第２回）

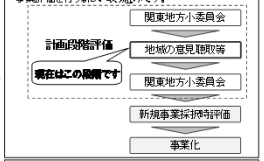
一般国道4号は、東京都中央区の日本橋を起点とし、青森県青森市に至る国内最長で関東と東北とを結ぶ大動脈・主要幹線道路です。

一般国道4号の栃木県矢板市～大田原市～那須塩原市間においては、交通集中による速度低下や、野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる、沿道環境が悪いなどの課題が見られますので、その解決に有用な道路整備の計画検討を進めています。

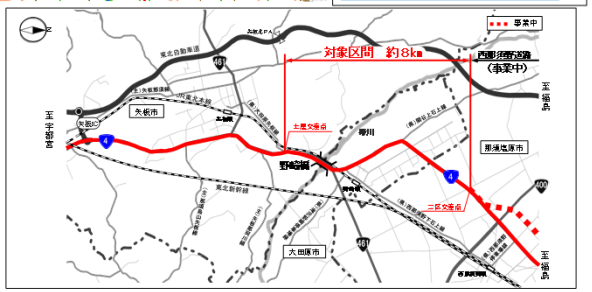
第2回地域の意見聴取（今回）では、第1回地域の意見聴取で頂いたご意見をもとに、ルート帯案を選ぶ際に重視すべき項目等についてご意見をお聞きしたく、ご協力をお願いします。

計画段階評価とは

公共事業の実施過程の透明性を一層向上させる観点から、地域の皆様の声を聞きながら、計画段階において事業評価を行う新しい取組みです。



関東地方小委員会の資料等は、国土交通省関東地方整備局のホームページでご覧いただけます。
関東地方整備局URL
http://www.ktr.mlit.go.jp/road/shihon/index00000021.html



お問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局
宇都宮国道事務所　調査課

〒321-0831　栃木県宇都宮市平松町504
TEL 028-638-2185(直通)
ホームページ：http://www.ktr.mlit.go.jp/utunomiya/

第１回地域の意見聴取について

第1回地域の意見聴取は、平成26年2月6日から3月7日まで約1ヶ月間実施しました。

意見聴取は、住民の皆さまへは、調査票を郵送にて配布、その他に留置き・Webなどを実施、関係団体の皆さまへは、調査票を郵送にて配布し、ご意見をお聞きしました。また、関係団体の皆さまへヒアリングを実施し、様々なご意見をお聞きしました。

【住民の皆さまへの意見聴取】

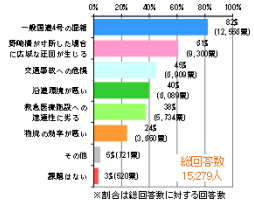
調査票形式

郵送・留め置き・Webの3種類の方法で実施し、合計で15,279人からの回答を頂きました。

配布方法	配布回収部数		
郵送配布 郵送回収 留置き	配布数	88,300部 住民　87,600部 留置き　600部	回収数計 15,279部
	回収数（回収率）	14,893部　（17%）	
Web	回収数	386部	

【地域の課題】

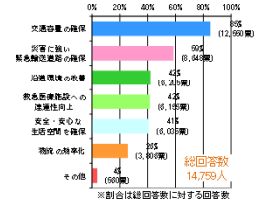
地域の課題について、住民の皆さまから意見を頂き、確認しました。



※割合は総回答数に対する回答数

【課題を解決するための目標】

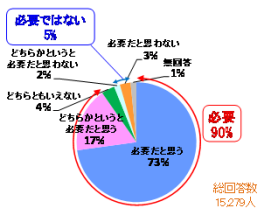
6つの政策目標について、住民の皆さまから意見を頂き、確認しました。



※割合は総回答数に対する回答数

【道路整備の必要性】

道路整備の必要性について、住民の皆さまから意見を頂き、確認しました。



【今後の道路整備にあたって配慮すべき事項】

全意見数9,922件のうち最も多かった主な意見。

- 矢板市十屋から野崎橋間はいつも渋滞している。早く片方2車線にして欲しい。（3,232件）
- 下石上地区は車道が狭く、カーブもあるので大型車とすれ違う時に非常に危険を感じる。（2,594件）
- 下石上地区の状況は悲惨。住民にとって騒音や排気ガスは本当にひどい。（620件）
- 東北道の通行止め時、野崎橋寸断時、東日本大震災時は国道4号などが非常に混雑した。災害時にも強い道路にしてほしい。支援物資や自衛隊車両が通行できないのは大変不安。（379件）

※カッコ()内の件数は、主な意見に類似する意見の件数

第1回地域の意見聴取の結果についての詳細な内容は、一般国道4号（栃木県矢板市～那須塩原市間）のホームページ（http://www.～～～～～～～～～～）に掲載しております。

【関係団体の皆さまへの意見聴取】

調査票形式

平成26年2月に郵送にて配布し、75社からの回答を頂きました。

対　象	配布数	回収数（回収率）
工業団地　会員企業（さくら市、矢板市、大田原市、那須塩原市、那須町）	108社	75社（35%）
栃木県トラック協会塩那支部　会員企業	109社	
合計	217社	

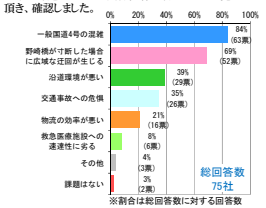
ヒアリング

各業界の関係団体の皆さまへヒアリングを実施し、意見をお聞きしました。

対　象	実施状況
教育機関（小学校 中学校）	3
工業団地連絡協議会	2
トラック協会	7
経済団体（商工会議所 観光協会）	11
農業協同組合	2
消防本部	3
自治会	2
合計	30

【地域の課題】

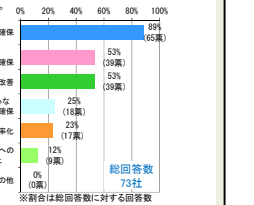
地域の課題について、関係団体の皆さまから意見を頂き、確認しました。



※割合は総回答数に対する回答数

【課題を解決するための目標】

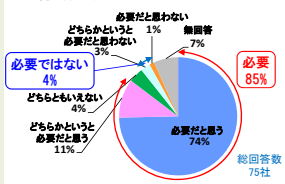
6つの政策目標について、関係団体の皆さまから意見を頂き、確認しました。



※割合は総回答数に対する回答数

【道路整備の必要性】

道路整備の必要性について、関係団体の皆さまから意見を頂き、確認しました。



【今後の道路整備にあたって配慮すべき事項】

全意見数41件のうち、最も多かった主な意見。

- 大型トラックが多く、朝夕の慢性的に渋滞が発生しているので、渋滞緩和のために道路整備が必要。（17件）
- 下石上地区は大型車両同士がすれ違う場合、（ドライバーとしても歩行者としても）圧迫感を感じる。歩道と車道を広げて欲しい。（9件）
- 一般車と工業利用の車両が別れて利用できると良い。（1件）

※カッコ()内の件数は、主な意見に類似する意見の件数

まとめ　地域の課題や道路整備の必要性についてとりまとめました

- 第１回地域の意見聴取で掲示した政策目標は、地域が感じている一般国道4号の主な課題を網羅。
- 住民と関係団体の回答いただいた皆さまの多くが、道路整備の必要性を感じている。

→ 必要とされる道路整備に向けて「矢板・大田原・那須塩原地域の政策目標を達成するための機能」を有するルートを検討

4-3. 意見聴取資料案

③地域の“課題”と、課題を 解決するための“目標”

一般国道4号　栃木県矢板市～大田原市～那須塩原市間における課題解決のための目標を定めました。

地域の課題として、道路の混雑、広域な迂回、沿道環境、交通事故、物流、医療について整理を行いました。その地域の課題から政策目標の案を決定し、第1回地域の意見聴取において、地域の皆さまからご意見を頂き、課題を解決するための目標を以下のとおり定めました。

課題 1 一般国道4号の混雑

一般国道4号に大田原矢板線及び一般国道461号が合流する野崎橋付近に交通が集中し、朝夕に速度低下が発生しています。

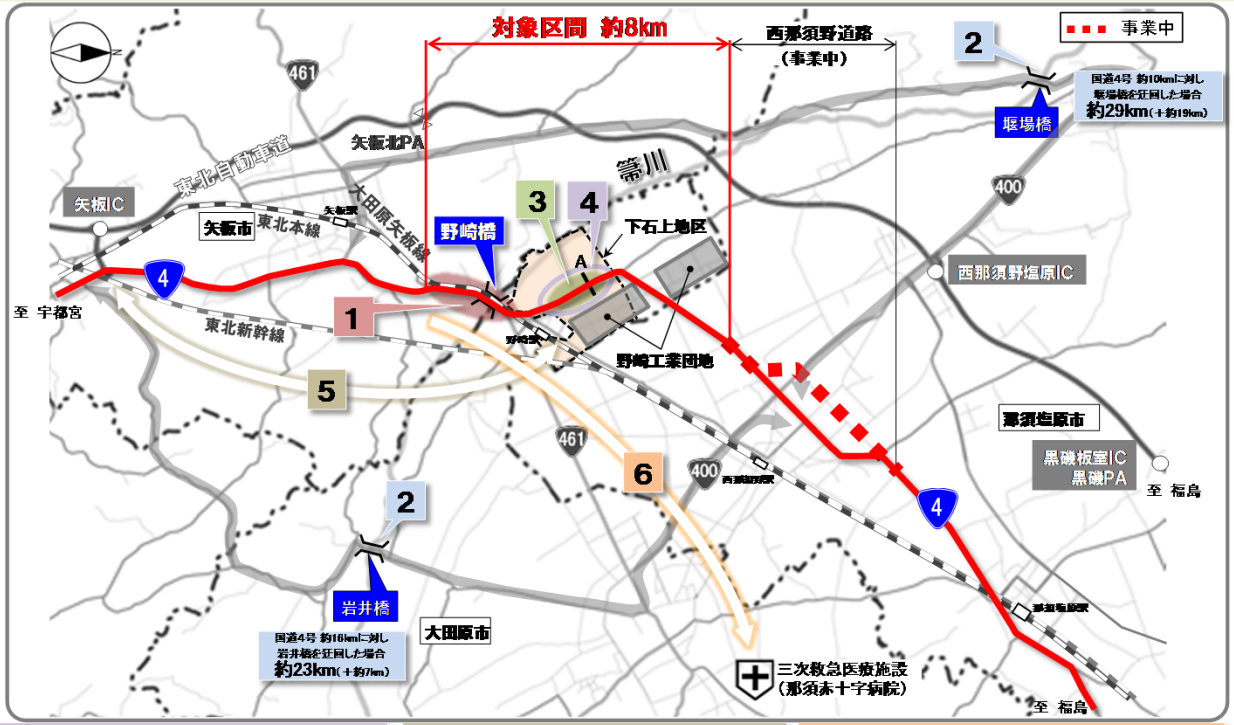
目標 1 混雑の緩和

課題 2 野崎橋が寸断した場合に広域な迂回が生じる

一般国道4号の代替路となりうる一般道の緊急輸送道路が近隣にありません。
平成10年の大雨災害では、野崎橋が5日間通行止めとなり、広域な迂回を余儀なくされました。
東日本大震災時は、一般国道4号が通行止めとなった東北道の代替路となり、速度低下が発生しました。

目標 2 災害に強い緊急輸送道路の確保

【野崎橋の被災状況】
※平成10年8月豪雨で5日間全面通行止め



課題 3 沿道環境が悪い

一般国道4号の大田原市下石上地区は、歩道や車道が狭く沿道に住宅が立ち並んでいますが、大型車が多く走行し、騒音が深刻です。
排気ガス、エンジン音による健康被害を心配する声もあります。

目標 3 沿道環境の改善

課題 4 交通事故への危惧

一般国道4号の大田原市下石上地区において、歩道や車道が狭く急カーブがある区間を、多くの大型車が通行しており、非常に危険な所を通学路として使用されています。
大型車両の風圧だけでも恐怖を感じているとの声もあります。

目標 4 安全・安心な生活空間を確保

課題 5 物流の効率が悪い

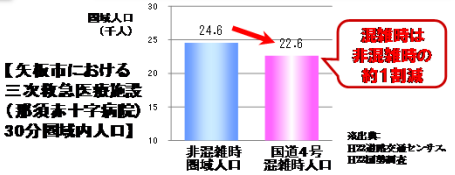
野崎工業団地内の企業からは、矢板ICが近く好立地にありながらそのメリットを生かせていない、物流の非効率は製造業にとって致命傷との声があります。

目標 5 物流の効率化

課題 6 救急医療施設への速達性に劣る

一般国道4号の混雑時は、三次救急医療施設へ30分以内で搬送できる人口が、非混雑時に比べ約1割減少します。

目標 6 救急医療施設への速達性向上（搬送時間の短縮）



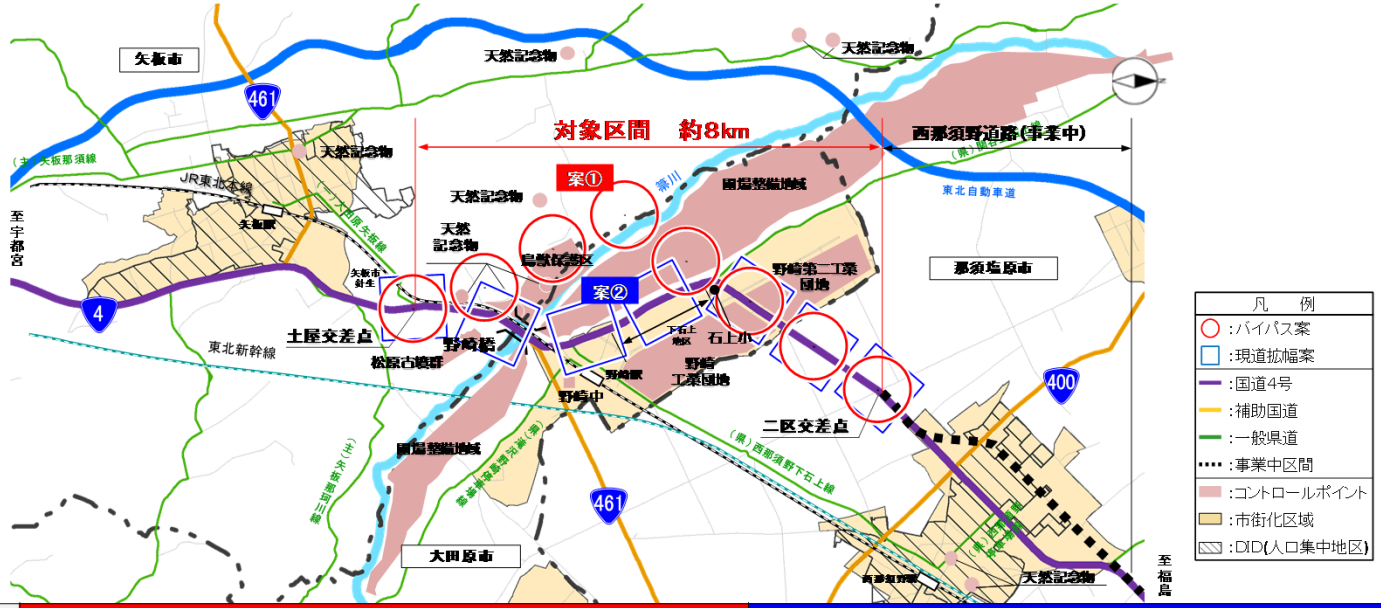
以上のような政策目標を達成するための機能を有する道路となるよう検討を進めます。

4-3. 意見聴取資料案

④ルート帯（案）の概要

一般国道４号　栃木県矢板市～大田原市～那須塩原市間のルート帯の案

矢板市～大田原市～那須塩原市間における政策目標を達成するための機能を有する道路として、ルート帯の案（500m帯）を作成しました。



比較案		【案①】バイパス案	【案②】現道拡幅案
ルート案の趣旨		箒川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備し、残りの区間は現道2車線を拡幅する案	現道2車線を拡幅する案
政策目標	混雑の緩和	・箒川渡河部及び石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られるとともに、現道を拡幅する区間でも交通容量（車線数）の確保により、現道の混雑が緩和される。	・交通容量（車線数）の確保により、現道の混雑が緩和される。
	災害に強い緊急輸送道路の確保	・箒川渡河部をバイパス整備することにより、新たな代替路が確保されるため、野崎橋が寸断しても広域な迂回が回避できる。	・野崎橋近隣に新たな橋梁が設置されるため、緊急輸送道路が強化されるが、新たな代替路は確保されない。
	沿道環境の改善	・石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られ、現道の交通量減少により騒音や排ガスなどが低減し、家屋連担地の沿道環境が改善される。	・大型車などの交通が現道を通過するため、騒音や排ガスなどの低減が見込まれず、沿道環境は現状とあまり変わらない。
	安全・安心な生活空間の確保	・石上小周辺をバイパス整備することで交通転換が図られるため、現道の大型車交通量の減少により、家屋連担地の安全・安心な生活空間が確保される。	・現道拡幅により歩道や車道が広がり、歩行スペースや走行スペースが確保されるため、家屋連担地である下石上地区の安全・安心な生活空間が確保される。
	物流の効率化	・箒川渡河部及び下石上地区・石上小周辺をバイパス整備することにより、交通容量が確保されるとともに、現道を拡幅する区間でも交通容量が確保されるため、混雑緩和により高速ICまでの定時性が向上する。	・現道拡幅により交通容量が確保されるため、現道の混雑緩和により高速ICまでの定時性が向上する。
	第三次救急医療施設への速達性	・箒川渡河部をバイパス整備することで交通転換が図られるため、現道の混雑緩和により、三次救急医療施設への速達性が向上する。	・車線数増加により救急車両優先の走行スペースが確保でき、三次救急医療施設への速達性が向上する。
その他	自然環境への影響	・バイパス区間では、天然記念物（植物、動物の繁殖地）に影響を与える可能性があるため、配慮が必要。	・天然記念物（植物、動物の繁殖地）は回避しており、影響を与える可能性は小さい。
	沿道施設への出入り	・バイパス区間では、沿道施設への出入りは想定していない。現道を拡幅する区間では、車線数増加により道路幅員が広がるため、沿道への出入りが困難となる。	・車線数増加により道路幅員が広がるため、沿道への出入りが困難となる。
	地域分断	・バイパス区間では、一部地域が分断され、道路を拡幅する区間では、車線数増加により沿道出入りや横断が困難となるため、一部地域で分断が生じる。	・車線数増加により市街地で沿道出入りや横断が困難となるため、地域分断が生じる。
	影響する家屋数等	約50棟（宅地面積：約2万㎡）	約140棟（宅地面積：約6万㎡）
	事業費	約230～270億円	約260～300億円

4-3. 意見聴取資料案

⑤質問票（住民・留置き）

質問票

地域の意見聴取のチラシをご覧いただき、以下の質問について、皆様のご意見を返信用ハガキに記入し、
投函してください。ご協力よろしくお願いいたします。

質問① 利用頻度

国道4号矢板市～大田原市～那須塩原市間の利用頻度についてあてはまる番号を1つ選び、はがきの回答欄の□にチェックをつけて下さい。

1	毎日	
2	週に数回程度	
3	月に数回程度	
4	ほとんど利用したことがない	
5	利用したことがない	質問④へ

質問② 国道4号の移動手段

矢板市～大田原市～那須塩原市間の国道4号を通行する際の主な移動手段ついてあてはまる番号を全て選び、はがきの回答欄の□にチェックをつけて下さい。(複数回答可)

1	自動車
2	公共交通（バス・タクシー）
3	バイク
4	自転車
5	徒歩

質問③ 国道4号の利用目的

国道4号矢板市～大田原市～那須塩原市間の主な利用目的についてあてはまる番号を全て選び、はがきの回答欄の□にチェックをつけて下さい。(複数回答可)

1	通勤・通学
2	仕事（営業・運送など）
3	私用（日常的な買い物・食事など）
4	その他〔※具体的な内容を記入してください〕

質問④ 第1回地域の意見聴取の結果

第1回地域の意見聴取（平成26年2月～3月）の結果について妥当だと思いますか？あてはまる番号を1つ選び、はがきの回答欄の□にチェックをつけて下さい。

1	妥当だと思う	質問⑥へ
2	どちらかと言うと妥当だと思う	
3	どちらとも言えない	質問⑤へ
4	どちらかと言うと妥当だと思わない	
5	妥当だと思わない	

質問⑤ 結果が妥当だと思わない理由

妥当だと思わない理由についてお聞かせ下さい。
（自由回答）

〈 質問⑥へ 〉

質問⑥ ルート帯を選ぶ際に重視すべき事項

今回、2つのルート帯案を検討していますが、地域にとって望ましい案を選ぶ際に重視すべき項目はどれだと思われますか？特に重要だと思われる番号を3つまで選び、回答欄の□にチェックをつけて下さい。

1	交通混雑を緩和する円滑な道路
2	災害時に強い緊急輸送道路
3	家屋連担地域における沿道環境を改善する道路
4	安全・安心な生活空間を確保する道路
5	物流効率化を図る道路
6	広域化する救急搬送の搬送時間を短縮する道路
7	自然の改変が少ない道路
8	沿道施設へ出入りやすい道路
9	地域分断の少ない道路
10	支障家屋の少ない道路
11	事業費が経済的な道路
12	上記項目を重視すべきと思う理由、または、上記以外で重視すべきと思う項目について、ご自由にお書きください。

質問⑦ ルート検討の際に配慮すべき事項

⑥でチェックした項目について、今後具体的なルートを検討する際に配慮すべき事項があれば、具体的にお聞かせください。
（自由回答）

質問⑧ その他

その他ご意見がありましたらお聞かせ下さい。
（自由回答）

※ハガキは、お近くの郵便ポストへ
平成26年〇月〇日（金）までに投函をお願いします。

ご協力ありがとうございました。

⑥返信用はがき（住民・留置き）

郵便はがき

料金受取人払郵便

宇都宮東郵便局
承認
0000

差出有効期間
平成26年00月
00日まで
（切手不要）

3218790
468

栃木県宇都宮市平松町504

国土交通省　関東地方整備局
宇都宮国道事務所　調査課　行

ご協力お願いいたします。

あなたについてお聞かせください。			
年齢	□10代　□20代　□30代　□40代 □50代　□60代　□70代以上		
職業	会社員・公務員・自営業・農業 漁業・学生・主婦 その他（　　）	性別	男・女
住所	[　　] 都・道・府・県 [　　] 市・町・村 地区名 [　　]		
運転免許	□あり　　□なし		
地域の意見聴取（第1回）	□回答した　□回答していない		

※個人情報を同意なく第三者に開示・提供することはありません。
（法令により開示を求められた場合を除きます。）

質問	回答欄
①	□1　□2　□3　□4　□5
②	□1　□2　□3　□4　□5
③	□1　□2　□3 □4 その他（　　）
④	□1　□2　□3　□4　□5
⑤	
⑥	□1　□2　□3　□4　□5　□6　□7　□8　□9　□10　□11 □12 その他（　　）
⑦	
⑧	
⑨	□1　□2

ご協力ありがとうございました。

4-3. 意見聴取資料案

⑦質問回答票（関係団体）

栃木県矢板市～大田原市～那須塩原市間における一般国道4号の道路計画に関する地域の意見聴取（第2回） **質問回答票**

【概要説明資料】（別紙）をご覧頂き、企業・団体の方々のご意見をお聞かせください。

●ご記入にあたって
・この調査は普段道路をご利用いただいている企業の方々の意見を広く頂戴するためのものです。
・本調査票１枚に企業・団体としての意見をご記入ください。
・回答頂いた結果のうち、特定の企業・団体が識別できる情報は、公表いたしません。

質問①　国道4号矢板市～大田原市～那須塩原市間の利用頻度についてあてはまる番号を1つ選び、番号に○をつけて下さい。

１．毎日　２．週に数回程度　３．月に数回程度　４．ほとんど利用したことがない　５．利用したことがない（質問④へ）

質問②　貴社の業態について最も近い番号を1つ選び、番号に○をつけて下さい。

１．製造業　２．運輸業　３．卸売・小売業　４．サービス業　５．学校・教育関係　６．商工会議所　７．観光協会
８．農業協同組合　９．消防　１０.その他（　　）

質問③　国道4号矢板市～大田原市～那須塩原市間の主な利用目的についてあてはまる番号を全て選び、番号に○をつけて下さい。（複数回答可）

１．運送（配達含む）　２．営業　３．その他（　　）

質問④　第1回地域の意見聴取（平成26年 2月～3月）の結果について妥当だと思いますか？あてはまる番号を1つ選び、番号に○をつけて下さい。

１．妥当だと思う　→質問⑥へ
２．どちらかと言うと妥当だと思う　→質問⑥へ
３．どちらとも言えない　→質問⑥へ
４．どちらかと言うと妥当だと思わない　→質問⑤へ
５．妥当だと思わない　→質問⑤へ

質問⑤　妥当だと思わない理由についてお聞かせ下さい。

（自由回答）

（質問⑥へ）

質問⑥　今回、2つのルート帯案を検討していますが、地域にとって望ましい案を選ぶ際に重視すべき項目はどれだと思われますか？特に重要だと思われる番号を3つまで選び、番号に○をつけて下さい。

１．交通混雑を緩和する円滑な道路
２．災害時に強い緊急輸送道路
３．家屋連担地域における沿道環境を改善する道路
４．安全・安心な生活空間を確保する道路
５．物流効率化を図る道路
６．広域化する救急搬送の搬送時間を短縮する道路
７．自然の改変が少ない道路
８．沿道施設へ出入りしやすい道路
９．地域分断の少ない道路
１０．支障家屋の少ない道路
１１．事業費が経済的な道路
１２．その他（上記項目を重視すべきと思う理由、または上記以外で重視すべきと思う項目について、ご自由にお書きください。）

質問⑦　質問⑥でチェックした項目について、今後具体的なルートを検討する際に配慮すべき事項があれば、具体的にお聞かせ下さい。

（自由回答）

質問⑧　その他ご意見がありましたらお聞かせ下さい。

（自由回答）

質問⑨　前回の地域の意見聴取（第１回）にご回答しているかお聞かせください。あてはまるものを1つ選び、番号に○をつけて下さい。

１．回答した　２．回答していない

最後に貴社についてお聞きします。それぞれご記入ください。

貴社名（　　）　所在地（　　）
ご担当者様　所属（　　）　氏名（　　）　電話番号（　　）

※この質問回答票は平成26年0月0日（曜日）までにFAXまたはE-mailにてご返送をお願いします。

FAX:00-0000-0000 or E-mail:aaaa@aaaa

ご協力ありがとうございました。